

平成 28 年度

---

**第18回**  
**わたしの主張岩手県大会**  
**発表文集**

---



わたしの主張岩手県大会実行委員会

## 目 次

1	はじめに .....	1
2	大会日程 .....	2
3	大会風景 .....	3
4	わたしの主張発表作品 .....	5

区 分	発 表 題	学 校 名	学 年	氏 名
最優秀賞	強く 優しく 未来を見つめて	北上市立南中学校	3年	石川 杏奈
優 秀 賞	「声に出す勇気」 共に生きるために	花巻市立石鳥谷中学校	3年	阿部 祥子
		矢巾町立矢巾北中学校	3年	村松 拓海
優 良 賞	困難を乗り越えて 「いま」を生きる 1 / 1の個性	盛岡市立城西中学校	3年	田中 愛理
		八幡平市立安代中学校	3年	矢部 凜香
		遠野市立遠野中学校	3年	小田島芽衣子
入 賞	生きること 今、生きていること 子供たちを守る地域社会へ 「知らない」から生まれる偏見を越えて 相手のよさに目を向けて 未来～踏み出そう、今～ 五つの輪 一つの和 いつかこの海をこえて 「ひとこと」の重さ 命はかけがえのないものだから 「認める」 価～立志誓いの言葉～	盛岡市立下小路中学校	3年	佐藤 花野
		滝沢市立滝沢中学校	3年	馬場 友悠
		奥州市立前沢中学校	3年	吉田 麗良
		奥州市立江刺第一中学校	3年	千田 彩加
		一関市立桜町中学校	3年	瀧野澤 愛
		一関市立大原中学校	3年	加藤 夕捺
		住田町立有住中学校	3年	大和田菜々海ローズ
		釜石市立釜石東中学校	3年	佐々木千芽
		山田町立山田中学校	3年	黒沢 知花
		久慈市立大川目中学校	3年	宅石 七瀬
二戸市立福岡中学校	3年	大村 郁弥		
		岩泉町立岩泉中学校	3年	八重 檉 蘭

※ 各賞受賞作品は地区順に掲載しています。

5	審査委員長講評 .....	24
6	各地区大会の開催結果 .....	25
7	審査要領 .....	29
8	第18回わたしの主張岩手県大会実施要綱 .....	30
9	わたしの主張岩手県大会の期日・会場及び最優秀賞受賞者 .....	32
10	参考 「少年の主張全国大会～わたしの主張 2016～」入賞作品 .....	33

(\*表紙の写真は、北上市立南中学校 石川杏奈さんです。)

## はじめに

第18回わたしの主張岩手県大会は、平成28年9月15日（木）に盛岡市の小田島組☆ほ〜る（アイーナ7F）を会場に開催されました。この大会には、今年は約5,600名の中学生が参加し、県大会には、地区大会で選ばれた代表17名が出場しました。

この大会は、次代を担う中学生に、未来に向けての夢、社会に対しての意見や希望、日常生活の中で感じたことや考えたことを発表する場を提供することにより、自らの主張を正しく伝え理解してもらう力を身に付けるとともに、地域社会との関わりについて考え、行動する契機とするほか、多くの県民に中学生の考えや行動への理解を深めていただくことを通じて、子どもたちの健全育成の充実を期すことを目的として実施しているものです。

主張の内容は、日常生活、学校生活、クラブ活動など、自分の身の回りで起こる様々な体験を通して、気づいたり学んだりした「生き方」、「考え方」などを訴えるものとなっており、瑞々しい感性と澁刺とした態度で、素直で中学生らしい思いが込められた主張は、聴衆の心を打ち、感動を与える素晴らしいものばかりでした。特に本年は、タイトルにも多く使われた「生きる」という言葉、また内容にも「かけがえのない」という言葉が多く使われていました。命の尊さや重さ、家族や友人とのふれあいや支え合う心を描いた発表が目立ちました。

発表の内容となっている家族との関わり、人との関わり、地域との関わりの中で思いやりの心や支え合う気持ちをもって生きていく大切さなどは、今の時代に求められる家族愛、郷土愛そして地域の防犯意識の啓発にもつながるものと考えられるところです。

この発表文集から、その主張に込められたメッセージをしっかりと受け止めていただき、次代を担っていく中学生が何を感じ、考えているのかを知る契機としていただければ幸いです。

なお、本大会の最優秀賞受賞者の石川杏奈さんは、平成28年11月13日（日）に東京都で開催された「少年の主張全国大会」において、努力賞を受賞しました。

おわりに、本大会を開催するにあたり、盛岡市、盛岡市教育委員会、盛岡市立城西中学校をはじめ、関係者のご協力とお力添えをいただきましたことに感謝申し上げます、巻頭のごあいさつといたします。

平成28年12月

わたしの主張岩手県大会実行委員会

## 第 18 回わたしの主張岩手県大会日程

日時：平成 28 年 9 月 15 日（木）13：00～16：30

会場：小田島組 ☆ほ～る（アイーナ 7F）（盛岡市盛岡駅西通 1-7-1）

- |    |           |  |           |
|----|-----------|--|-----------|
| 1  | 開会のことば    | 盛岡市立城西中学校生徒代表                          | 伊 藤 輝 紀   |
| 2  | 主催者あいさつ   | わたしの主張岩手県大会実行委員会<br>(公社)岩手県青少年育成県民会議会長 | 澤 野 桂 子   |
| 3  | 歓迎のことば    | 盛岡市長                                   | 谷 藤 裕 明   |
| 4  | 大会出場者紹介   |  |           |
| 5  | 来賓紹介      |  |           |
| 6  | 審査委員紹介    |  |           |
|    | 審査委員長     | (株)岩手日報社取締役論説委員会委員長                    | 村 井 康 典   |
|    | 審査委員      | N H K 盛岡放送局放送部アナウンス副部長                 | 横 林 良 純   |
|    |           | (一社)岩手県芸術文化協会会長                        | 柴 田 和 子   |
|    |           | ガールスカウト岩手県連盟連盟長                        | 平 井 ふみ子   |
|    |           | 岩手県中学校文化連盟会長                           | 高 橋 清 之   |
|    |           | (公社)岩手県青少年育成県民会議副会長                    | 小 苺 米 淳 一 |
|    |           | (公社)岩手県防犯協会連合会専務理事                     | 菊 池 昭 一   |
| 7  | 主 張 発 表   |  |           |
| 8  | アトラクション   |  |           |
|    |           | 盛岡市立城西中学校生徒による「合唱」                     |           |
| 9  | 成績発表並びに講評 | 審査委員長                                  | 村 井 康 典   |
| 10 | 表彰（賞状）    | わたしの主張岩手県大会実行委員会<br>(公社)岩手県防犯協会連合会会長   | 細 江 達 郎   |
|    | （記念品授与）   | (株)岩手日報社取締役論説委員会委員長                    | 村 井 康 典   |
| 11 | 閉会のことば    | 盛岡市立城西中学校生徒代表                          | 武 田 翔 太   |

# 大会風景



主催者あいさつ（澤野桂子県民会議会長）



歓迎のことは（盛岡市長代理：豊岡教育部長）



花巻市立石鳥谷中学校・阿部祥子さん



矢巾町立矢巾北中学校・村松拓海さん

## 発表風景



アトラクション（城西中学校「合唱」）





成績発表・講評（村井康典審査委員長）



表彰式



県大会出場の皆さん

## 第 18 回わたしの主張岩手県大会出場者 発表作品

(原文のまま掲載)

※ 縦書を横書としたため、漢数字の一部を算用数字に置き換えました。



## 最優秀賞

### 強く 優しく 未来を見つめて

北上市立南中学校 3年  
石川 杏奈 (いしかわ あんな)

突然ですが、見てもらえますか？私と空手との出会いは、今から8年前の夏。「杏奈には強い子になってほしいの。心の強い子供に。」そんな母の願いからでした。

「礼に始まり、礼に終わる」・・・見あげる道場の壁のそんな言葉に見守られ、私の稽古が始まりました。先生や仲間を敬うこと、持ち物を整え、大切にすること、目を見て心からの挨拶をすること・・・普段の生活のことも細かに注意されました。男の子に混じっての練習です。打たれた所にはあざができ、痛くて、疲れて、へとへとでした・・・それでも辞めずに続けられたのは、「お前は必ず強くなる。いつかきっと優勝できる」・・・そう言って下さった先生の言葉と稽古があったからです。そしてもう一人、どんなに忙しくても、道場まで送り迎えをしてくれた母の励ましと支えのおかげです。

見えますか？これは、私が北日本大会で優勝したときにいただいたメダルです。熱い闘いが繰り広げられているオリンピックのメダルに比べたら、小さな小さなメダルです。でも、たくさんの思い出と大切な人の心があふれ出す、かけがえのない私の宝物なのです。裸足で走った、冷たい雪道の稽古、暑い真夏の道場、導いて下さった先生、一緒に頑張った仲間。祖父母の声、懐かしい小学校。私を育ててくれたふるさととは、緑豊かで、海がきれいな三陸の釜石です。美しい自然と人の優しさに包まれながら、私は、心と体を鍛えてきました。

でも、5年前の東日本大震災で、私のふるさととは大きな悲しみに包まれました。見慣れた街は、一瞬で、灰色の廃墟となりました。水も電話も電気も使えない中で、連絡の取れない家族の帰りを、祈る想いで待ち続けた時間。小学校の体育館や教室にあふれ出す、家族や家を無くした人々・・・あの苦しみと痛みを私は決して忘れることはありません。

今、私には帰りを待ってくれる家族がいます。大好きな友達がいて、自分の進路だって自由に選ぶことができる。与えてもらった命と時間を自分のために使える幸せを、私はかみしめています。だから、わがままや気まぐれで、誰かを傷つけたら自分を粗末にする。そんな命の使い方は絶対に許せない。そう思っています。

私には幼稚園の時から夢があります。それは、正義を守り、人の役に立てる、警察官になることです。空手を通して学んだ勇気と感謝を忘れず必ず夢を叶えます。そして、もう一つ。母がしてくれたように、家族を守るお母さんになること。

私は負けません。人の痛みがわかる、強く、優しい心を持ち続け、未来を見つめて、まっすぐに進んでいこうと思っています。

#### ○ この作品を通して、これからどんな人生を作り上げていきたいですか？

私は、この作品を通して、たくさんのものを得ました。自分でも気付かずにいた、本当の気持ちに気付いたり、忘れかけていた大切な気持ちを改めて思い出したり・・・本当に本当にいい取り組みになりました。私が頑張れたのは、自分の事のように一生懸命になってくれた先生、見守ってくれた親、応援してくれた友達がいたおかげです。だから、頑張ってきたことに誇りを持ち、感謝の気持ちを忘れず、これからも応援される、応援したくなる私の人生を作り上げていきたいです。



## 優秀賞

### 「声に出す勇氣」

花巻市立石鳥谷中学校 3年  
阿部 祥子 (あべ しょうこ)

みなさん、みなさんは、自分の意見を率直に相手に伝えることができますか。

私は同じように質問されたら、迷わず「はい」と答えるでしょう。なぜなら、普段から私は生徒会役員として、吹奏楽部の部長として、間違っているときは勇氣を持って注意しようと心掛けているからです。そのことで時々、「また祥子が偉そうに言ってるよ」と言われることもありましたが、でも、正しいことをはっきり言うのは大切なことであり、私は常にそうしてきたつもりでした。

しかし、それは学校の中だけでのことだったのです。それ以外の人達には、例え気になっていることでも言わずに我慢したり、避けて通ったりしていたのです。そのことが証明される出来事がありました。

それは私の住んでいる石鳥谷の地区行事でのことです。世代間交流会といって、子供からお年寄りまで年代の違う人達が集まって会話などを楽しむ会で、地域の活性化を図る活動です。年の違う人と話ができる数少ない機会なので、私はとても楽しみにして参加しました。

しかし、その会場で、私はとても嫌な思いをしました。

それは「タバコ」です。

老人の中には、子供と話すときに当たり前のようにタバコを片手に、煙をはきながら話に参加している人達がいたのです。

私は交流どころではありませんでした。早くその場から逃げ出したいという気持ちだけで、辛い時間を過ごしました。そして、次の世代間交流会から、色々な理由をつけては参加しないようになりました。

間違っていることをはっきり伝える、という私の信念は、どこに消えたのでしょうか？タバコを吸うと体に悪いということは授業で学びました。また、近くでその煙を吸っても副流煙によって病気になるということも知っていました。しかし、私は、一緒にいた老人に「タバコは別の場所で吸ってください」とその場で言えなかったのです。自分でも情けない思いでした。

声をかけられては断り、何度も欠席しているう

ちに、母がその理由を聞いてきました。私は少しためらいましたが、本当のことを話しました。すると母はとても冷静に、「そうなの」と言って少し考えている様子でした。

そして、急に立ち上がると、原稿用紙と鉛筆を私の前に差し出し、

「ここに、あなたの思っていることを書きなさい。」と言いました。母は地区の役員をしています。後で聞いたことですが、母は自分がタバコのことを会議で言うよりも、子供の生の声を届けたほうがより地区の人達の心を動かすだろうと考えたようです。

私の作文は地区の会議の中で、役員の方によって読まれたそうです。そして、「子供がいる場所ではタバコを吸わないこと」「煙や臭いがこない場所に喫煙所を設置すること」などが確認されたということでした。

私はその後、交流会に参加しましたが、その時はもう分煙がしっかり守られ、会場のタバコの臭いも全くしませんでした。

私は時々、「言わないほうがよかったかな」と思うときがあります。

特に中学生になり、人間関係で色々揉め事があつたりすると、何も言わずにいた方がまるくおさまるのではないかと、か、私が我慢すればいいか、と思うこともありましたが、

しかし、誰かが勇氣をだして言うことで、多くの方が辛い思いをしなくてすむのなら、やはり私は、自分の考えをはっきりと声に出して言える人になりたいと思います。私一人の力は小さくても、賛同する人が多くなれば多くなるほど、大きな力となって周囲に働きかけていけるのです。

自分達の住む社会は、自分達の手で守り、より住みよい環境にしていかななくてはなりません。

私はこれからも、「声に出す勇氣」を持ち続けたいと思います。

#### ○ この作品を通して、これからどんな人生を作り上げていきたいですか？

「声に出す勇氣」はこれからの生活で「意見を言う力」として様々な場面で役立っていくと思います。これは自分のための意見だけを言うのではなく、どうすれば辛い思いをする人が少なくなるか、という「全体」のことを常に頭においておくことではじめて役立ちます。私はこれからも、周囲をよりよくするための意見を率先して声に出していきたいと思っています。



## 優秀賞

### 共に生きるために

矢巾町立矢巾北中学校 3年  
村松拓海（むらまつ たくみ）

「お前、キチガイじゃん。」

最近、このような会話をよく耳にします。気違いという言葉自体には悪意はありません。辞書にものっている言葉です。

ですが最近、この言葉を相手をバカにしたり、傷つけたりするために使う人が増えています。さらには本当に障がいを抱え、苦しんでいる人をバカにするように使う人さえいます。僕はこのような言葉を聞く度に思うのです。なぜ障がいを持っているというだけで人をバカにするのか。障がいを持つ人たちと僕たちとに大きな違いはあるのか、と。

僕には知的障がいを抱えた叔母がいます。叔母は学生時代、障がいを理由に石を投げられるなどのいじめを受けていました。言葉による暴力は恐らく数え切れないほどあったのではないのでしょうか。その時の叔母の気持ちを想像すると、僕はまるで深い海の底にいるような、なんとも言えない、暗い、嫌な気持ちになるのです。叔母の兄である僕の父がいじめを見かねて助けに入ることもあったそうです。僕は小さい頃から家族に「お前と叔母さんは何も変わらない。一人の人間として接しなさい。」とよく言われてきました。だからという訳ではありませんが、僕は15年間叔母と一緒に生活してきて、自分と叔母が違うと感じたことは一度もありません。確かに叔母はたまに言うことが周りとずれており、それが原因でケンカになってしまうこともあります。ですが、叔母は嬉しいことがあったら笑顔で喜び、悲しいニュースが報道されていれば、涙を流すのです。叔母は感情を持つ一人の人間。そんな叔母と僕たちとに大きな違いがあるとは思えないのです。以前、僕

の通っている中学校で講演会がありました。その中で、講師の先生がおっしゃった言葉に僕は衝撃を受けました。「どんなに苦しい障がいを抱えている人でも、表現することができないだけで、いつでも自分の考えを持っているのです。」・・・今まで、僕の世界のいわゆる「障がい者」は叔母だけでした。叔母とは口論やケンカができます。しかし、喜びや怒りなどの感情を表現することすらできない障がいを持つ人たちもいる。そのことに改めて気づかされた瞬間でした。まだ記憶に新しい相模原の障がい者施設で起った殺傷事件。加害者のあまりに身勝手な動機に、僕は激しい怒りを覚えました。被害に遭った方々の苦しみは想像することすらできません。どんなに重い障がいでも、この世に生を受けた以上、一人の人間であることに変わりはないはずなのに・・・。

皆さんは障がいを抱えた人をバカにしたことは一度もないと言えますか。自分と障がいを持つ人は対等だと胸を張って言えますか。共に生きるために僕たちにできること、それは障がいをその人を形づくる個性と捉え、優しく声を掛け、寄り添うこと。助けを求められたら快く手を貸すこと。

目に見えるものだけを判断材料にせず、相手の立場になって何を思っているのかをよく考えてください。同じ人として、喜びに寄り添い、悲しみに同調してください。もっと相手の心の声に耳を傾けてください。そして、聞こえたならば実際に行動してください。一人ひとりが相手を尊重する気持ちを持つことで、僕たちは共に支え合い、互いに住みやすい社会を創っていけるはずなのです。

○ この作品を通して、これからどんな人生を作り上げていきたいですか？

私はこの作品を通して、健康な人と障がいを抱えている人は何も変わりはないのだという事を皆さんに伝えたいと思っています。また、障がいを抱えている人が少しでも過ごしやすい環境をつくるために、将来は介護の勉強をし、障がいを持つ人たちを支えるような仕事に就きたいと考えています。



## 優良賞

### 困難を乗り越えて

盛岡市立城西中学校 3年  
田中 愛理 (たなか あいり)

全日本吹奏楽コンクール盛岡地区大会 城西中学校吹奏楽部、結果は「銅賞」。でも、私には10小節のソロを成功させたことが何よりも嬉しくて、充実感で一杯でした。なぜなら、少し前の私はそんなことは実現出来ないような現実を抱えていたからです。

私は左右の腎臓が小さく、うまく機能しない病気を持って生まれました。小学3年生の冬から腹膜透析による治療をして来ました。毎日2回治療を行うので時間が制限され、学校行事や部活動で皆と同じ行動が出来ませんでした。病気がなければみんなと同じことができるのに。治療のせいで体はいつもだるく無気力になっていく自分が悲しくなりました。

そんな中、腹膜透析の治療は5年が限度で、それ以降は血液透析か腎移植を選ばなくてはなりません。腎移植には、生体腎移植と献腎移植があります。献腎移植は平均15年待つこともあり非現実的でした。血液透析も時間の制限がある事が分かり、血液型が一致している母をドナーとした生体腎移植が選ばれました。母は私の為に自分の腎臓を提供する決断をしてくれました。父も大切な家族を失うかもしれないという危険も覚悟して、私と母の決断を後押ししてくれました。岩手県内での腎移植が、中学生以下2例目、女子中学生で初めてという事もあり、前例も無く慎重な対応が求められました。その為、検査や準備に1年以上かかりました。そしてこの春、手術の日を迎えました。

予定の手術時間より7時間多くかかり、術後も容態が安定しなく苦しい時、多くの方に支えて頂

き、笑顔を取り戻す事が出来ました。私は改めて、私の命は私一人のものではない、多くの方の支えて生きていられるのだという事を実感しました。

手術後、みんなが当たり前に行っていることが、やっとできるようになりました。当たり前のことができる喜びは、言葉では言い表せない位大きく、ありがたいものでした。手術後私の可能性はとても広がっています。

母はそんな私を見て言いました。「無駄な事一つもない。今まで起こった全ての事に意味がある。その事を忘れず、挑戦して行って欲しい。」まさにその通りです。

私には、沢山の夢があります。クラリネットがもっと上手になりたい。時間を気にする事無く史跡巡りの旅行がしてみたい。好きな日本史を生かす仕事に就きたいのもっと詳しく学びたい。それに挑戦する時間を私は与えて貰いました。

「何もしたいことが無い、生きていたってしょうがない。」などと思ってしまう事はありますか。そんなことはありません。私達は誰もが、その人に与えられた大切な命を貰って、多くの方に支えられて生きています。一人一人の命が、かけがえないものなのです。生きているからこそ、自分のやりたい事や夢に出会い、挑戦する事が出来ます。その事をもっと真剣に考えて欲しいと思います。

私は沢山の夢に挑戦してみたいです。私の夢を支えてくれる人達の事を忘れず、私も笑顔でそれに答えられる人間になります。それが私がこの世に生まれて来た意味だと思うからです。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

私は困難を乗り越えたからこそ、成長する事が出来たと思います。腎移植を体験し、命の大切さ、支えてくれるたくさんの方々が私の周りにいる事に気づきました。私の病気が無ければ、出会う事が無かったと思います。今、自信を無くしている人、孤独を感じている人、無気力になっている人、病気を抱えて希望を失っている人にこの主張を届けたいです。誰もが、決して命を粗末にしないで欲しいと思います。



## 優良賞

### 「いま」を生きる

八幡平市立安代中学校 3年  
矢部 凜香 (やべ りんか)

「より高く、より遠く、より美しく。誰よりも長く、空に居たい。」

そんな想いを胸に、私は長い助走路を高スピードで滑走します。その先に見えてくる景色。それは、言葉にできないほど壮大で、まるで自分が風と一体化したような気分です。

私は、中学校入学と同時にスキージャンプを始めました。

この挑戦のきっかけは、不治の病を患ったことです。

4年前の冬、アルペンスキーに打ち込んでいた私を突然襲った、妙な倦怠感。異様なまでの、のどの渇き。多飲多尿を繰り返す日々。気がつくと私はガリガリにやせ細っていました。

様々な検査の末、明らかになった病名。それが、「Ⅰ型糖尿病」です。生活習慣病といわれる「Ⅱ型糖尿病」とは違い、原因は不明です。治療法も未だ見つかっていません。生きるための唯一の手段は、毎日注射を打つことです。一日最低でも5回、多い時には8回以上。私は腕・お腹・脚など、あらゆる部位に自ら針を刺し、命をつなぎます。注射を打たなければ、私はたった3日で死に至ります。

「なんで私なの？」

「どうして治らないの？」

「一生このままなの？」

次々に浮かんでくる疑問。いくらぬぐっても、あふれ出す涙。それでも、「いま」を生きるためには、これしかない。

毎日血糖値を測り、注射を打つ。食べたい時に食べられない。注射が痛い。人目が気になる。

「普通に生きている人が、憎い。」

私の心は暗闇に沈み、行き場を失った苛立ちは、家族に向けられました。ささいな言葉にさえ激しく反抗し、ひどい言葉を投げつけては、自己嫌悪にさいなまれる毎日。そして、とうとう、絶対に言うてはならないひと言を口にしてしまったのです。

「こんな思いをして生きているくらいにだったら、いっそのこと死んだほうがいい。」

家族は何も言いませんでした。いや、言えなかったのかもしれない。

いろんなことを犠牲にしてまで、私を支えてくれている、大切な大切な家族。

痛いほど、分かっています。でも素直になれなくて。こんな自分を変えたい。でも、どうしていいかわからない。暗闇の中でもがき、さまよう私。抜け出したい……。

そんなとき、父が私に一冊の本をそっと手渡してくれました。「僕はまだがんばれる」エアロビック競技選手で、Ⅰ型糖尿病患者でもある、大村詠一さんの本です。ページをめくると、そこには、私と同じ病気を患いながら、前を向き、懸命に生きている大村さんの人生が綴られていました。

「苦しいのは、私だけじゃない。」

この広い世界には、私よりずっと重い障害を抱えて生きている人がたくさんいます。いじめや差別に苦しんでいる人も、戦争や災害で大切な人を失い、悲しみの中でうずくまっている人も。私の周りにだって、将来への不安や人知れぬ悩みを抱えながらも、仲間を思い、笑顔でクラスを明るくしてくれる友達の姿があります。

みんな、「いま」を生きている。「いま」という一瞬を必死で乗り越えようと頑張っている。

そう気づいたのです。

病気があっても、私は私。自分らしく生きていきたい。支えてくれる人たちのためにも、強く、前を向いて。いま、私の新しい人生をもう一度スタートさせよう。そして始めたのが、スキージャンプです。

空中に飛んでいる間は、果てしなく広い地球に自分ひとり。悩みごともちっぽけに思えてきます。

私は「いま」を生きている。そして、みなさんも。

何気なく過ぎ去っていく一瞬も、かけがえのない、私たちの人生です。

だから、「いま」を大切に積み重ねていきたい。どんなに辛いことがあっても、いまその一瞬を乗り越えることができれば、それは必ず明日への光になるはずです。

「いま」という一瞬が生み出す、未来の可能性を信じて、私は、私の「いま」を生きていきます。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

「いま」を生きる全ての人に届けたいです。私も、病気を患い、辛く苦しい過去を経験しました。それでも、たくさんの人に支えられ、今では病気を私の一部として受け入れられています。「いま」という一瞬を大切にすることで、みなさんと共に未来へと歩んでいけたら嬉しいです。



## 優良賞

### 1 / 1 の個性

遠野市立遠野中学校 3年  
小田島 芽衣子 (こだしま めいこ)

「障害者施設で19人刺殺、26人重軽傷」。犯人は施設の元職員。今年の7月26日に起きた事件です。「障害者なんていなくなればいい。」犯人の供述を聞いて愕然としました。そして「なぜこんな事件が起きてしまったのだろう」と考えていました。ふと、公民の授業を思い出しました。

日本国憲法の中には、「平等権」という権利があります。それは、「法の下での平等」つまりは誰もが等しく扱われる権利を意味します。

障害者ということだけで傷つけられる事件が起こってしまった現代。何が「平等」なのでしょう。あなたは健常者というだけで上から目線になっていませんか。私達は「平等権」についてきちんと理解し、生活できているのでしょうか。

私の学校には支援学校が併設されています。支援学校の皆さんと日々の学校生活を送り、学校行事も一緒に盛り上げています。

私のクラスは、支援学校に通っている「やっちゃん」と呼ばれる女の子と活動します。私達は彼女との会話や活動を楽しみにしています。私もその一人です。運動会の徒競走。私達は一緒に走ります。やっちゃんと一緒に走るのは10m。やっちゃんは私達のように速く走ることができません。それでも10mという距離を一生懸命走ります。共にゴールした時は、私とやっちゃんはハイタッチをします。そのときに見た彼女の達成感に満ちあふれた笑顔は私にとって宝物になりました。

誰にだってできないことや苦手なことがあります。それと同じで彼女にもできないことや苦手なことがあるのです。

新聞の中でこんな五行歌を見つけました。

〈100メートル／9秒／1歩／30分／どちらが

凄い〉。健常者には何でもない作業。しかしそれは障害者にとって、大変なことなのです。障害者は1つの作業に神経を張りつめ、全身全霊を込めて取り組んでいるのです。私達はその努力をどれだけ分かっているのでしょうか。70億分の1の人間としてではなく、1分の1の人間として、その人らしさを認め合い、共に助け合いながら生活していかなければならないのです。

私は初め、「平等」とは能力や体力に差があっても皆が同じように扱われるイメージを持っていました。しかし今は違います。「平等」とは能力や体力に応じて必要な手助けを受けること。そして一緒に並んで歩くことだと思います。私が考える「平等権」。それは障害のある人とない人がお互いを一人の人間として認め、助け合いながら暮らす権利です。この権利を誰もが理解し、生活することができれば素敵な未来が訪れるはずです。

私の思い描く未来。それは「人」が「障害者」や「健常者」などの言葉で分けられる世の中ではありません。「みんなちがってみんないい」。金子みすずさんの思いを具現化するような世の中です。運動や勉強に得意不得意があるように、障害自体をその人の「個性」として受け入れませんか。そして一人ではできないことを皆で手助けしていきましょう。十人十色、世界にはいろいろな人が生きています。それが楽しいのです。だからこそ、それぞれの個性を大切に生活していかなければならないのです。すべての人が心から笑って暮らせるように。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

健常者や障害者という垣根を越えて、それぞれの個性を受け入れながら笑顔で暮らせる未来を皆で一緒に作っていき、という思いを込めて、これからの日本の未来を作っていく存在である高校生や中学生に届けたい。



## 入賞

### 生きること

盛岡市立下小路中学校 3年  
佐藤花野(さとうかの)

みなさんは、「死」を意識したことはありますか。自分が死ぬときのことを考えたことはありますか。私たちはまだ中学生。死を迎えることに実感がある人は少ないと思います。

人間はいずれ死にます。私たちはその事実から逃れることはできません。そして、私たちが避けられない、避けてはいけないものがもう1つあります。それは、「生きること。」私は去年の経験からそういったことを考えるようになりました。

「おじいちゃんが亡くなったって。」朝起きた私に母が言った言葉でした。ほんの1週間前、ベッドに横たわる祖父の手を握って話しかけたばかりでした。突然の祖父の死は実感がなく、にわかには信じがたいものでした。

でも確かに祖父の手からあのときの温もりは消えていました。私たちに何かを伝えようと、言葉にならない声を発していた口は閉ざされ、何かを訴えるような強いまなざしまでもが閉ざされたままでした。最後に祖父に会ったとき、祖父はとても苦しうに懸命に息をしていました。その姿を見ることができず、私は祖父への感謝や思いを伝えることができませんでした。それは、もう会えないと頭で分かっている、何となくまたどこかで会えるような気がしていたからかもしれません。でも次に会ったときの祖父には、何を話しても何の反応も得られませんでした。これが死。私が生まれて初めて本当の死というものを目の当たりにした瞬間でした。

よく考えてみればおかしなことですが、それまではこの先の人生が無限にあると思っていたのでしょ。私はこのとき私たちの生きている時間にもいずれこのように終わりがくることに気付きま

した。

そのときから私は「生きること」について考えるようになりました。すると不思議なことに「死」に関するニュースばかりが耳に入ります。この1ヶ月間だけでも戦後最悪といわれる相模原の事件や、無視されたとの理由から集団で暴行を加え死に至しめる事件が起き、同じ中学生の自殺報道もあとを絶ちません。

また、学校生活の中でも「死んで」「消えろ」「殺すぞ」というような言葉を聞いたことがあるはず。本当に「死んでほしい、消えてほしい」と思っているのではなく、一時の感情で発してしまうこの言葉。これこそが「生きること」を軽んじている象徴です。

私たちが生きていられる時間には限りがあります。でもそれは「ある」という存在であって、限りを「つける」という行為ではないはず。

ではなぜ限りをつけてはいけないのか。みなさんの周りをよく見て下さい。家族、学校の先生や友達。必ずいるはず。自分を大切に思ってくれる人が。いなくなったら悲しむ人が。私たちに与えられた時間はそんな全ての人たちとの関わりの中で成り立ちます。私たちの時間は私たちだけのものではないのです。

「生きること」それは、私たちに与えられた時間を自分のまわりの人との関わりの中で、笑って、泣いて、怒って、感動して。そうやって心を動かし自分の人生を意味あるものへつくりあげていくこと。

誰にでも訪れる死。いつ訪れるか分からない死。その時まで「今」というかけがえのない時間を大切に懸命に私は、生きていく……。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

日々をただ何となく目的もないまま過ごしている人に、届けたいです。今回の発表では私にとっての「生きること」の意味を主張しました。この発表を聞いた方が「自分にとって『生きること』とは何だろう？」と考えるきっかけになったら嬉しいです。



## 入賞

### 今、生きていること

滝沢市立滝沢中学校 3年  
馬場 友悠 (ばば ゆゆう)

私は8月に生まれました。夏が来るたびに、考えさせられます。原爆のこと、戦争のこと。しかし、また、夏が来るたびに思うのです。私が誕生したときのこと。二人の兄弟のこと。そして…。

母からこの話を聞いたのは、小学4年生の時でした。私が成人の2分の1、10歳になるまで、待っていたそうです。命の大切さがわかる年だから、と。母は、教えてくれました。私は、三つ子だったそうです。あとの二人はおなかの中で亡くなってしまいました。生き残った私も無事に生まれてくるかわからない状況で、病院の先生が懸命に処置をしてくださり、そして、今、ここにいます。母は必死に私の命を守ってくれました。驚きと悲しみが込み上げてきました。涙がポロポロポロポロあふれてきました。ただ深い悲しみの気持ちだけでした。

小学校6年生の8月、私は広島に行くことになりました。母と妹、親戚や、戦争反対の活動をしている方々と、原水爆禁止のデモ行進に参加したり、被爆者の方のお話を聞いたりするためです。母は、戦争のこと、命のことを私と妹に伝えたかったようです。お話が終わり、母から「熱風を4秒間も浴びたと言っていたね。」と言われ、妹と一緒に数えた4秒。「1、2、3、4。」「長い」一気に恐怖が全身を駆け巡りました。被ばくした方は当時小学生だったそうです。校庭に身を伏せました。鉄が溶けるほどに熱い熱い風に耐えた4秒。命を守ってくれた背中が、今も板のように固く、心と体の傷は一生消えることがありません。

このとき私は、「生きる」ということの意味を考えました。

広島から帰ったあとは、命にかかわる報道を意識するようになりました。家族で戦争のことについて話す時間も増えました。

生きたくても生きられなかった人々。願いが届かず失われた命。つらい経験を背負ったまま、それでも自らの悲惨な体験を伝え続けている人々。私たちは、その方々のおかげで平和な現代を生きることができます。今ある一人一人の命は、決して当たり前ではありません。命は、はかないものなのです。だからこそ支えあって、大切にしなければならぬもの。

一緒に笑い、一緒に泣き、悩み、競い合い、明るく元気に生きていくはずだった二人。一緒に生まれたかった……。明るい光を見ることができなかった二人を思うと、辛くてたまりません。涙が出てきます。でも、その涙は、決して悲しみだけではありません。「二人の分まで、生きていこう。何事も全力で頑張ろう。」という決意の涙です。

「低体重児だったのに、こんなに大きくなって」という母の言葉。私は、二人の栄養をもらって生まれてくることができました。そして、いろいろな方々の支えがあってここまで成長することができました。今度は、私の番です。周りの方々を支えることのできる人間になりたい。将来は医療の仕事について、たくさんの命を救いたいと思っています。二人のことを考えればなんだってできる。夢に向かってどんなことも乗り越えていける。どこかで絶対に二人が応援してくれていると信じて。

#### ○ この作品を通して、これからどんな人生を作り上げていきたいですか？

この作品では戦争で亡くなった方や生まれる前に亡くなった私の兄弟のことを書いています。だから、私はどんなことにもあきらめず、大変なことがたくさんあっても負けずに正面から立ち向かえるような人になりたいです。そして、亡くなったすべての方々の分はできないかもしれないけど、せめて私の亡くなってしまった二人の兄弟の分だけでも、色々な事をやり遂げ、充実した人生を作り上げていきたいと思っています。



## 入賞

### 子供たちを守る地域社会へ

奥州市立前沢中学校 3年  
吉田麗良(よしだ うらら)

最近、新聞やニュースでよく見かける「児童虐待」の文字。皆さんはこの現状をどう思いますか。近年、虐待の被害にあった児童の数は増加の傾向にあります。また、強制猥褻や誘拐等の犯罪も後を絶ちません。このようなニュースを見聞きするたびに、私は、激しい怒りと悲しみを覚えます。なぜこのような事件を起こすのか。私にはその心理が分かりません。

まだ、善悪の判断もつかないような、無邪気な子供たちを苦しめるなどということは、人として、決してあってはならないことだと思うのです。皆さんもそう思いませんか。

私は子供が大好きです。普通のちょっとしたことに喜びを感じ、幸せそうに笑う純真な姿を見ると、とても優しい気持ちになります。そう、強く感じた出来事がありました。それは、今年の夏、職場体験で保育所へ行ったときの事です。

初めは、どう接していいのか分からず、戸惑ってばかりでした。物の見え方も、価値観も違う、子供たちのお世話をするとすることは、思っていた以上に難しいことだったのです。

「どうしたら、皆は喜んでくれるのか。」

自分なりに考え、常に笑顔で接するよう、心がけました。すると、次第に子供たちの顔から緊張の色が消え、なついてくれるようになりました。私が、絵本の読み聞かせを始めると、とても興味深そうに話を聞いてくれるのです。絵本の主人公を見つめる、そのまなざしに、心を動かされました。

子供といっても、一人の人間であり、心があります。例え、考え方や感じ方が違ってても誠意をもって接すれば、心を開いてくれるのです。この事を知ることができて、とても優しい気持ちになり

ました。

この体験を通して、私は子供たちを守りたいと強く思うようになりました。そのためには、この社会の環境を変えなくてはなりません。けれど、今の無力な自分には、できることは何もないと思っていました。

ところがある日、私は、テレビで次のような出来事を見ました。それは、アメリカでの話です。一人の女の子が誘拐されそうになっていたところを、ある男の子が間一髪で救ったというのです。なんと、驚くべきことに、男の子は当時、まだたったの6歳でした。女の子を守ろうと、誘拐犯である男に戦うつもりで立ち向かっていったそうです。私は大きな衝撃を受けました。彼の勇気と正義感を見習わなくてはなりません。私たちよりもずっと小さな体で、一人の人間を救ったのです。

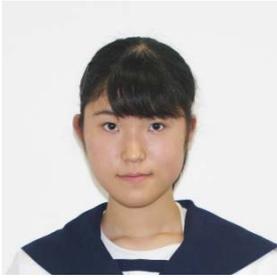
このことから、私の考えは変わりました。私でも、子供たちのためにできることがあるのかもしれない。私の手で、子供たちを守りたい。そう思うようになったのです。

そこで考えついたのが、「あいさつ」です。登下校時に、地域の方々といあいさつを交わす。小さな事ですが、毎日続けることで強い信頼関係を築くことができます。その信頼関係の築かれた社会では、誰かが誰かをわかっていて、優しい思いやりをもって接することができるでしょう。

私は今まで、たくさんの人々に支えられ、守られて生きてきました。大きく成長した今、その恩返しとして、「あいさつ」を通して温かい地域社会を築いていきたいです。一人一人が思いやりをもって過ごせたなら、きっと社会は変わるはずです。私たちの手で、心で、子供たちの笑顔を守りましょう。

○ この作品を通して、これからどんな人生を作り上げていきたいですか？

今、私の中にある「子供たちを想う心」。この心をいつまでも忘れず、「あいさつ」を通じて、子供たちが笑顔で、安心して暮らせる地域社会を築いていきたい。常に思いやりの心をもって社会に目を向け、自分にできることは何かを考えて生きていきたい。いつか、子供を「育てる」立場になったとき、深い愛情をそそいであげられる自分を作りたいと思う。



## 入賞

### 「知らない」から生まれる偏見を越えて

奥州市立江刺第一中学校 3年  
千田 彩加 (ちだ あやか)

私の母は、脳脊髄液減少症です。何かのきっかけで、脳と脊髄に入っている液が漏れ出し減少することによって起こる病気です。

私の母は、私が2歳の時、交通事故に遭いむち打ち症になったのがきっかけです。主な症状は頭痛、めまい、首の痛み、しびれ、体のだるさなどです。

この病気が世の中に知られるようになったのはごく最近のことです。原因がはっきりしなかったため、お医者さんからも「自律神経失調症」と誤診されることが多く、場合によっては、本人の気持ちの問題にされることもあったそうです。私の母の場合も、発症したのが事故の2年後だったので、仙台の病院で病名が分かるまでいくつもの病院を回りました。

仙台の病院でやっと原因が分かり、ブラッド・パッチという、髄液が漏れている場所に太い針を刺し、自分の血液を採取したものをに入れて髄液漏れを止める唯一の治療を受けることができました。しかし、治療は過酷なものでした。吐き気が止まらず、嘔吐を繰り返しました。入院中は点滴を24時間つなげられ、トイレ以外起きることができなかつたそうです。退院しても調子が突然悪くなることもありました。そんなときは近くの病院で診てもらい点滴してもらおうしかないのですが、ある看護師さんから、母はこんな言葉を掛けられたのです。「気合で治しなさい。」気合でどうにかなる病気ではありません。母はとてもショックだったそうです。この病気に対する理解の不十分さから、医療の専門家の看護師さえも、苦しんでいる患者にそんな思いやりのない言葉を掛けてしまうことがあったのです。

この病気と向き合う中で、母が一番辛かったことは、私が保育園のときに、運動会で一緒に走れなかつたことや遊べなかつたことだそうです。日

常生活でも、家事を思うように出来ずとても心苦しかったそうです。

しかし、当時の私は母がそんなことを思っているとは知らずに生活していました。保育園のときは母があまり家にいなくて寂しかったです。「なんで一緒に遊べないの」「友達のお母さんはあんなに動いているのに、なんで私だけ」「少しは動けるでしょ」と母を責める気持ちでいっぱいでした。私も、母の病気の辛さを理解できていませんでした。小学生になり、少しずつ母の病気の本当の辛さを理解できるようになりました。また、この病気の勉強会にも母と一緒に参加し、母より苦しんでいる人がいることも知りました。

「脳脊髄液減少症」という病気は飽くまで一例です。医学が発達した現在でも、まだ世間に認められない難病で苦しんでいる人がたくさんいます。もしかすると、皆さんの周りにも理解されない病気で苦しんでいる人がいるかもしれません。あなたがその病気に対して理解がないために、あの看護師さんのように「気合で治せば」という心無い言葉で、その人を傷つけているかもしれません。母を近くで見てきた私には分かります。病気の辛さと同じくらい、ときにはそれ以上に、相手に分かってもらえないことは辛いのです。「知らない」ということが、偏見や差別を生み出します。私たち一人ひとりが視野を広く持ち、未知の病気にも理解を深めていくことが必要なのではないでしょうか。自分の限られた知識で決め付けてしまう前に、「どうしたの?」と声を掛け、目の前の人の苦しみに全力で耳を傾けることができれば、本当に人に優しい社会が実現するのではないのでしょうか。

#### ○ この作品を書いたきっかけはなんですか？

この主張を通して、「脳脊髄液減少症」という病気をたくさんの方々知ってもらいたかったからです。母の通院に付き添った時、杖を使わなければ歩けない方、起きているのが辛くて長椅子に横になっている方、合併症のある方など、様々な症状の方がいる事に驚きました。そのような方たちも、長い間世間から「何を怠けているの?」と言われ、苦しんできました。私が弁論で話すことによって、少しでも多くの皆さんに病気を理解して頂き、共存していける社会になっていけばいいと思います。



## 入賞

### 相手のよさに目を向けて

一関市立桜町中学校 3年  
瀧野澤 愛（たきのさわ めぐみ）

「あなたの長所は、何ですか？」

先生が、クラスのみんなに問いかけました。そのとき、私は、「えっ、私に長所なんかない！」と思いました。すると先生は、「それじゃあ、あなたの短所は何ですか？短所をプリントに書いてください。」と言いました。私は自分の短所を「怒ると周りのことが見えなくなります」と書きました。「次に、視点を変えて短所を見てみたらどうなるでしょうか。グループごとに、相手の短所を長所に言い換えてみましょう。」あるメンバーは「泣きやすい」と書いていました。短所を長所に言い換えるのは、案外難しいことがわかりました。考えた結果、私は、「感情がこまやかで、素直だ」と書きました。

「一体、私の短所は、視点を変えるとどうなるんだろう。」手元に戻ってきたプリントには、「それだけ一生懸命になれるということ」とか、「情熱的だ」などと書かれていました。自分が短所と感じていたことを、みんなはこんなふうに見てくれているんだ、そう思うとうれしくなりました。そして、私もみんなの良いところをどんどん見つけていこうと思うようになりました。

その話のあと、私は、ある友達とケンカしたことを思い出しました。その友達の行動の遅さに、私が勝手に怒ってしまったことが原因でした。彼女は最後までやり遂げるタイプですが、いつもマイペースで、そのペースに私は毎日いらいらを感じていました。そして、ついに、「早く準備してよ。待っている身にもなってよ！」と言ってしまった

のです。彼女は、悲しい顔をして、「しょうがないじゃん。」とぽつりと言いました。そんな出来事を思い出したのです。

私は、ケンカした友達の行動を違う視点で見えることにしました。彼女は、困っている友達がいると寄り添うような、やさしい心の持ち主でした。それから、教室の電気を消したり、学級の本の整理を進んでやったりするような、気遣いができる人だということがわかりました。そんな心優しい、気配りができる彼女にきつい言葉を投げかけてしまったことを、私は深く反省しました。

相手のよさに気づくことで、相手の印象が変わります。人のよさに目を向けて、受け止めることで、見方や接し方も変わります。相手のよさに目を向けることで、よい関係を築くことができると私は思います。実際、私は、彼女によさを伝えるようにしました。すると、彼女も、私のよさを伝えてくれるようになったのです。お互い、以前よりも信頼できる関係になったと感じています。

皆さんの中に、人間関係で悩んでいる人はいませんか。相手を責める前に、相手のよさに目を向けることができれば、信頼できる関係を築くことができるのではないのでしょうか。視点を変えることは、難しいことかもしれませんが、毎日一つずつ誰かの良いところを見つけていけば、あなたの世界が変わるのではないのでしょうか。

あなたの長所は、なんですか。そして、あなたの友達の長所は、なんですか。

#### ○ この作品を書いたきっかけはなんですか？

私は、友達関係がうまくいかなかったという暗い思い出がありました。しかし、ある授業を通して、自分の良さに気付くことができました。また、友達や家族の長所を見るようになりました。それをきっかけに、周りの人との接し方も変わりました。私と同じように、人間関係で悩んでいる人がいると思います。私の体験が、少しでも解決の手がかりになってくれればと思い、発表することになりました。



## 入賞

### 未来へ～踏み出そう、今～

一関市立大原中学校 3年  
加藤 夕捺 (かとう ゆうな)

この夏、私が手にしたものだ。それは、思いをつなぐ「2つの種。」そして、思いをつなぐために、踏み出すことの大切さ。

震災以降、交流を続けている気仙中からの「朝顔の種。」今年も、美しく、空に向かって咲いています。もう1つは、陸前高田市復興ボランティアでいただいた、阪神淡路大震災のシンボル、「ひまわりの種。」思いを乗せ、手から手へつながってきた「種。」です。

生徒会の復興ボランティア。今年は、けんか七夕の、会場の草刈り。広大な敷地でしたが、地域のみなさんが楽しみにしていると思うと、やり遂げようと思いました。

すると、サポートステーションの方からこんな話を聴きました。

「昨日は誰かが、今日は君たちが、明日は別の誰かがここに来て、出会うことはない。でもね、誰かのために行動する、その思いが、つながっているんだ。」

思いは、つながる。――

私は、思いを伝えてきたらどうか？思いを伝えたい、「2つの種」のように。そう考え、今、ここにいます。

私は幼いころ、3つ上の兄を亡くしました。兄は生まれつき体が不自由で病弱でした。両親は階段の上り下りをさせ、出かけるときは大きな酸素ボンベを持ち歩きました。しかし、願いは届かず、兄は亡くなりました。

失いたくない命を失うつらさ。生きたくても生きられない人がいる。命には限りがある。けっしてゲームのようにやり直すことはできない。一緒に映った写真の兄は、私に教えてくれます。

しかし、この世の中には、自ら命を絶つ人、他人の命を奪ってもいいと身勝手に考える人がいます。県内でも、同じ中学生が死を選ぶという悲しい出来事がありました。そして、そこまで追い詰める人がいるのは、まぎれもない事実です。この世の中に、なくなっている命はない。奪っていい

命はないのです。

私には、大切な人がたくさんいます。家族も友達も、一人一人が失いたくない存在。あなたにも、いるはず。私達はなぜ、そのことを忘れているのでしょうか。

大震災のような状況で誰もが考えたこと。生きていることが幸せで、家族や友達がかけがえのないものだということ。みんなで笑い、そばにすることが当たり前ではないことを、私たちはあの日、感じたはず。――

あなたは今、一人で悩んでいませんか。誰かに話すことは、弱いことでも逃げることでもなく、一歩踏み出す手段です。思いは人に見えません。言葉にしてください。サインを出してください。

あなたは今、誰かを傷つけていませんか。偏見や差別、勝手な判断で他人を見ていませんか。その人の良いところが見えていますか。

あなたの周りに、助けが必要な人はいませんか。声をかけてください。行動してください。寄り添ってください。それが、心の支えとなり、命をつなぐかもしれません。

命は、一人にたった1つ。誰もがかけがえのない一人。兄が、私たち家族にとってそうだったように。

私は将来、みんなが笑顔で生きる社会にしたい。一人一人がかけがえのない存在だと伝えたい。困っている人に手を差し伸べられる人になりたい。

思いはつながる。未来に向かって。そう、「2つの種」のように。――

ここから踏み出すのは、私。

そして、あなたも。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

今、いじめを受けている人に踏み出す勇気を出してもらいたい。命がどんなに大切に、失えば悲しむ人がいることを、全ての人に伝えたい。「自殺」という道を選ぶ人。そして、そこまで追いつめる人。そんな人たちを一人でも減らしたい。みんなが笑顔で生きる社会であってほしい。という思いでいっぱい。私だけでなく、みんなが、踏み出し、未来へ思いをつなげてほしい。そう願っています。



## 入賞

### 五つの輪 一つの和

住田町立有住中学校 3年  
大和田 菜々海ローズ（おおわだ ななみローズ）

私をよく見てください。

「外人じゃん。」

「キャンユースピークイングリッシュ？」

中総体で野球応援を終えて帰ろうとしていたときでした。ある学校の生徒は私を見て、「外人じゃん」と驚き、ふざけた英語で話しかけ、笑いながら走っていきました。あつという間の出来事でしたが、その人の顔、言われた時の情景は今でもはっきり覚えています。そのくらい嫌な出来事でした。私のことを何も知らないのにバカにされ、腹立たしく思うと同時に、とても悲しくなりました。

私はアメリカ人の母と日本人の父をもつハーフです。ハーフはいろいろなところで得をすると思われているようで、「ハーフはいいなあ〜」と言われますが、ハーフだというだけでいじめられ、居場所を見つけるのに苦労するという話も耳にします。「親のどっちが外国人？」「親の出会いはどこ？」など、プライベートな質問も多く、そのたびに説明しなければなりません。また、外国人として扱われたり、冗談半分にジャパニーズ英語で話しかけられたり……そんな日々を送っています。

けれど、それらのことより、私は「ハーフだから当たり前」と思われることが苦手です。皆さんは、ハーフは「英語がうまい」と思っているかもしれませんが、全員がそうとは限らないし、英語が母語ではないハーフもいます。日本人が国語を学ぶように、私も英語を勉強しています。なのに「ハーフだから英語ができる」というような言葉をかけられると、努力を認めてもらっていないような気がして落ち込むことがよくあります。私の努力を一人の人として認めてください。「ハーフだから……」と決めつけないでください。

私が感じているハーフ差別は小さなことかもしれませんが、世の中には障がいや人種に対しての差別が今もあります。差別される原因の多くは変

えられないものです。アメリカ人や日本人など、その人種になろうと思ってなったわけではないので差別する理由はどこにもありません。

なぜ差別的な言動をしてしまうのでしょうか。それは自分との違いをうまく受け入れられないからだと思います。どうしていいかわからず、ふざけたり、見下したりする……。受け入れるという解決にもっていけなくて差別するのは、表現の仕方が幼く、言い訳にしかありません。自分の感情としっかり向き合って、正しい表現の仕方を覚えてください。

このような身近にある小さな差別が世の中の悲惨な出来事につながっていると思います。各地で起こっている紛争の多くは民族問題が原因だと言います。人種が違ふとか宗教が違ふとか……それはおかしいことです。人は皆違ふのです。顔も得意なこととも違ふます。だからこそ、一人一人が特別と言えるのではないのでしょうか。お互いが一人一人をよくわかろうと努力することが必要です。

リオ・オリンピックで、たくさんの国の代表が人種を超えて競い合っていました。日本代表としてハーフの選手も活躍しました。私はそれを見て、人が仲良くなるのに国籍や人種は関係ないのだと思いました。今、日本とアメリカに戦争が起これたら……私はどうすればいいのかわかりません。両方の国に大切な家族がいます。私は居場所を失ってしまいます。どちらの国につくかを決めなきゃいけない、そんな世の中になってほしくないです。オリンピックの旗の五つの輪は五大陸を表すと言います。理想は、住んでいる場所や人種や国を超えて、一人一人がお互いにわかりあうこと。見た目決めつけずに、その人をよく知ろうとすること。

五つの輪が大きな大きな一つの和になる世の中を、私たちが作っていきませんか。

#### ○ この作品を通して、これからどんな人生を作り上げていきたいですか？

世界の架け橋となるような存在になりたいです。日本とアメリカの2つの国に家族がいるというのはよくあることではないので、それをいかして、2つの国の距離を縮めていきたいと思っています。できれば日本とアメリカだけではなく世界各地の距離が少しずつでも縮まるような仕事に就きたいです。具体的にはまだイメージできませんが、そのことを常に心に置いて目標を立て、行動をしていきたいです。



## 入賞

### いつかこの海をこえて

釜石市立釜石東中学校 3年  
佐々木 千 芽 (ささき ゆきめ)

うれしさも悲しみも大切な思い出も  
残らず輝いて明日を照らしてる

釜石東中学校には宝物の歌があります。5年前、東日本大震災の年、私たちの先輩は「かまいしの第九」で「地球星歌」を歌いました。その歌は感動を与え、多くの人が涙を流していたそうです。その様子を聞いた地球星歌の作曲家であるミマスさんが、先輩たちと歌を作ろうということになったそうです。先輩たちは歌に込めた思いを一人ずつ書きました。夢、鵜住居、出会い、希望、生きる 喜び 輝き・・・

それらの言葉をつなぎ合わせ、曲をつけてすてきな歌ができあがりました。それが、「いつかこの海をこえて」なのです。歌詞の頭文字を読んでいくと、「鵜住居で生きる夢抱いて生きる」メッセージが折り込まれています。大事な大事な私たちの宝物の歌なのです。

5年前は、家の生活状況はもちろん、学校も間借り生活を送るなどそれまでとは全く違う環境でした。私も3年生から4年生に上がろうとしていた3月、鵜住居小学校で被災しました。父が避難所に迎えに来てくれたのは3日後、そこから、大槌の祖父の家に5日ほどいて、今度は北上の祖父の家に行きました。4月になって4年生になった私は、そのまま北上の小学校へ転校しました。9月になって栗林町の仮設住宅に入ることになり、釜石に戻りましたが元の鵜住居小学校ではなく近くの栗林小学校に転校しました。友達とも別れ、父とも離れて生活していたので不安で寂しく落ち着いた日々だったと記憶しています。

5年はずいぶん昔のようにも感じられます。

あれから5年経ち、今年また私たちに第九に出る機会が巡ってきました。今年、私たちの曲「い

つかこの海をこえて」を歌います。先輩たちが5年前多くの人たちから支えられ震災を乗り越えた感謝を歌に込めて発表した第九、それを聞いてくださった人たちを励ました第九。その舞台に私たちも立つのです。

第九への出演が決まり、普段の練習にも力を入れなければならないのに、指揮者として前に立つとどこか緊張感のない気持ちの入らない顔が見えてきます。「いつの日もそばにいるたとえ離れていても・・・この歌詞をあの時の気持ちで歌えるのだろうか。」「こんな歌で感謝の気持ちなんか伝わるのだろうか。」先輩たちの取り組みと今の私たちでは全然意識が違うと思うのです。「笑顔、顔だよ。もっと、口角を上げて。」

「歌詞を考えて歌って。歌詞に気持ちを乗せて。」

「体で表現しようよ。もっと全身で。」

パートリーダーの声も空しくなるほど。「自分たちの合唱ってこんなものだけ。」悲しくなることもしばしばです。

でも、私たちには津波を生き抜いたDNAがあると地域の方々からも応援されています。私たちの力はこんなものではないのです。鵜住居に夢抱いて生きる私たちが、堂々と歌い上げることで自分たちが元気になり、地域に元気を与え、聞いてくださった方々が元気になれる第九にするために頑張らなければなりません。

いつかこの海をこえて

僕たちは船を出そう

歌詞の意味をかみしめて釜石の第九では心をつにして堂々と歌い上げます。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

私は、この主張をまず自分の学校の生徒に訴えたいと思います。「かまいしの第九」に出場するに当たり、私たちが歌い継いでいる「いつかこの海をこえて」を歌う心構えを練習を通じてみんなに伝えたいと思っています。また、「かまいしの第九」を通じて、地域の方々に感謝の気持ちを届けたいと思います。さらに、私たちの今の状況をこの主張を聞く全ての人に知らせたいと思います。釜石東中学校の生徒会長として、震災後のさまざまな支援に対し感謝の気持ちをもって訴えたいと思います。



## 入賞

### 「ひとつこと」の重さ

山田町立山田中学校 3年  
黒 沢 知 花 (くろさわ ともか)

皆さんは「いじめ」という言葉を聞いてどんなことを想像しますか。そしていじめられている人を見たら皆さんはどうしますか。

私は小学生の頃、実際にいじめにあったことをきっかけに「いじめ」という問題について、より真剣に考えるようになりました。

初めは自分がいじめの標的になっていることに気がませんでした。知らない内にクラスで孤立して、一人ぼっちになり、気付いた時には、周りから友達が消え、

「ウザイ」「キモイ」「こっちに来んな」  
そんな言葉をクラスのあちこちから浴びせられる、そんな日々があたり前になっていました。それが私が経験した「いじめ」でした。自分がいじめられていることは仕返しが怖くて、誰にも言えませんでした。どうしたらいいのか分からない内に「バイキンごっこ」という事もされるようになり、私の心は本当にズタズタで、ポロボロになっていました。

心についた傷は目には見えません。だから言って良いのか悪いのかを考えもせず口に出した言葉で、誰かを深く傷つけていても、言った当の本人は、傷つけてしまった事にすら気付いていない事もあります。さらには、人を傷つけると分かっているながら悪口を言う人も悲しい事ですが、ないとは限りません。

昔、私が好きなアニメに出てきた台詞の中に、「言葉は刃物であり、使い方を間違えれば厄介な凶器になる」というようなものがありました。私はまさにその通りだと思えます。言葉は日常に必要なものですが、使い方を間違えれば、誰かの心を傷つけるナイフにだってなりうるのです。もしかしたら一生消えない傷を残すかもしれないし、命すら奪ってしまうかもしれません。たかが言葉、されど言葉です。

しかし、そんな「言葉」に救われた事もありました。私がいじめにあっていたのと同じ頃に、私以外にも、同じようなめにあってた人がいました。その人も休み時間に一人でいたので気になっていて、その人と少しずつ話すようになりました。さらに、その後の日々に変化がありました。誰にも挨拶などする事のなかった私ですが、ある時からその友達が挨拶をしてくれるようになったのです。それからその友達とだけは毎日挨拶を交わすようになりました。毎朝、暗い気持ちで登校していた私は、友達の

「おはよう。」  
という言葉に支えられ、励まされ、助けられました。だから私もその友達を支えてあげたくて、日々の挨拶をどんなに辛くても大切にしようと心に決めたのです。

中高生のいじめによる自殺のニュースを見ると、私は、そんな単純な事ではないかもしれないけれど、誰かの温かい一言でも、挨拶でも、それがあつたら、何か変わったのではないかと思うことがあります。私も実際、ひとつことの挨拶で、救われた一人です。

今、いじめという経験を通して私が皆さんに伝えたい事は、たったひとつの言葉の重みをもう一度考えてほしいということです。

皆がきちんとひとつことの重みを理解して、言葉を使うことができれば、周りにいる人や友達ともっともっと良い関係を築いていくことができるのではないのでしょうか。そして、良い関係を築いていくことによって、いじめで苦しむ人を減らしたり、なくしたりできるのではないかと思います。

温かい言葉があふれる場所、それは誰もが自分らしく生きていける場所…私はそんな場所を皆さんと共にもっともっと創っていきたくです。そして、言葉で人を幸せにできる人になりたいと心から思います。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

私はこの主張をいじめで悩みを抱える全ての人に届けたいと思います。いじめられている人だけではなく、周りにいじめがあって、どうしたらいいのかと悩んでいる人、そして、加害者の立場にいる人にも届けたいです。そして、この主張がたくさんの人が「言葉」についてもう一度考えるきっかけになるように、私の主張を届けたいと思います。



## 入賞

### 命はかけがえのないものだから

久慈市立大川目中学校 3年  
宅石七瀬（たくいし ななせ）

「ばあちゃん、死なないで！」

家族の必死の呼びかけにも答えることなく、ある朝、祖母は息を引き取りました。あまりに突然のことで、私はあたりも構わず大声で泣きました。悲しくて悲しくてどうしようもなく、優しくした祖母との思い出が次から次へとあふれました。

祖母は、私にとってかけがえのない人でした。訳あって母親と離れて暮らすことになった私と弟の「親代わり」として、いつもそばにいてくれ、優しく、時に厳しく育ててくれたからです。母と離れて泣いてばかりいた弟も、本当は寂しいのに平気なふりをしていた私も、祖母の優しさに包まれているうち、いつの間にか心が落ち着いていました。「お帰りなさい」という祖母の声が聞きたくて、いつも学校から走って帰りました。

皆さんは、家族や自分のことを支えてくれる人のいることが、どれだけ幸せなことか考えたことがありますか。私は失ってから気づくことがとても多かったです。家族みんなでいる時の楽しさ。家族みんなで食べるご飯のおいしさ。でも、もう祖母とご飯を食べたり、楽しい話をしたり、買い物に行ったりすることはできません。

祖母が亡くなったとき小学5年生だった私も、家族や友達、学校の先生や近所の方々に支えられ、中学校に進学しました。中学校生活は想像以上に忙しく大変でしたが、その分、祖母のいない寂しさを感じることも少なくなりました。

ある日私は、「一人暮らしのお年寄りに絵手紙を書きませんか」というポスターに出会いました。そして、大川目中のボランティア団体「Dreamsプロッコリー」が、地域のお年寄りを励まし、支える活動をしていると知りました。周りに支えられることの多かった私も、支える側になればと思い、すぐに入団しました。絵手紙はあまり得意ではないのですが、祖母に出すつもりで心を込

めて描きました。たまに「ありがとう。次の手紙も楽しみにしています。」という返事をもらうこともあり、心が温かくなります。

少子高齢化が深刻な社会問題となっていますが、大川目町でも住民のほとんどが高齢者で、しかも一人暮らしが多いことを、ボランティアを通して知りました。高齢者といえば認知症や介護など、悪いイメージを持つ人もいますが、実際にふれ合ってみると元気な人が多く、「畑で採れた野菜なども食うが」とか、「浴衣の裾を直してけんが」となどと声をかけてくれ、皆さんいきいきとしています。

でも時々、「元気」ではあっても「平気」ではないと感じることがあります。お宅を訪問して帰る時の悲しそうな顔や、涙を流す人を見ると、「本当は寂しい」ことが痛いほど伝わってくるからです。

これまで私は、「命を大切にする」とは、死なない、死なせないことだと思っていました。けれど今は、若者も高齢者も自分にできることを相手にしてあげ、積極的に関わり合うことも「命を大切にすることだ」と考えるようになりました。

ある障害者施設で、身勝手な理由で多くの命が奪われるという前代未聞の事件が起こりました。また、自ら命を絶ってしまう人のニュースを見ると、祖母のように生きてくても生きられない人がいるのに、なぜ命を粗末にしてしまうのかと悲しくなります。この世に無駄な命は1つもありません。私は、大切な人がそばにいてくれる幸せに感謝し、今こうして私を生かしてくれる周りの人に感謝し、一日一日を大切に生きていきたいです。それが私を大切に育ててくれた祖母への、一番の恩返しになると思うからです。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

私はこの主張を、私と同世代の若い人達に伝えたいです。高齢者に偏見を持っている人には、高齢者も私達も自分にできることを通してお互いを理解することができるかと伝えたいし、今、思い悩んで命を絶とうと考えている人には、この世に無駄な命などないから、辛くても乗りこえてほしいと伝えたいです。また、自分の小さな力でも誰かを支える力になることを、私の経験から知ってもらいたいです。



## 入賞

### 「認める」

二戸市立福岡中学校 3年  
大村 郁 弥（おおむら ふみや）

#### 「トラブル」

意見の食い違い、感情のぶつかり合い、いざこざ、揉め事。何気なく発する言葉によって誰もが傷ついています。傷つかないで生きることなんてありえません。

私は小さいころからアトピー性皮膚炎という病気がひどく、みんなにからかわれていました。「薬だらけ」「汚い」「気持ち悪い」と散々いわれ笑われたりもしました。「なりたくてなったんじゃない、何でこんなに言われるんだ。」悔しく、悲しくなりました。こんな姿がいやで、人目がすごく気になるようになりました。

気分が落ち込み、でもそんな悩みを表には出せず、明るく振る舞う毎日。それは次第にストレスとなっていき、イライラする気持ちを抑えられず、人にぶつけるようになりました。

そんな情けない自分を変えたいと思い、私は、応援団リーダーに立候補しました。冬の厳しい特訓。裸足で体育館を走り、声を張り上げ応援歌を歌う。かじかむ指を無理やり伸ばし、手振りのキレを磨く。何日も続く特訓は、苦しく、つらく、何度もあきらめそうになりました。そんな時、私を支えてくれたのは友達の「がんばれ」「あと少しだ」という言葉でした。

応援団リーダーとして全員が認証されたとき、仲間から出たのは、「よっしゃーやったな」「これからだな」というお互いを認めたたえる言葉でした。

「人から認められている」という安心感、充足感、私の心の傷をいやし、自信をもたらしてくれました。

みなさんは普段、相手にどんな言葉をかけていますか。

友達同士の中で、ふざけて何の気なしに使う言葉。「だっせー」「色、黒っ」「うざ。」人の外見や性格を冗談でいうのは友達同士ではよくあることです。でもこれらの言葉は、相手を認めるものといえるのでしょうか。

考えませんか。その言葉を繰り返し使うことで、心を深く傷つけてはいないかを。

私の心を傷つけたのは外見を馬鹿にする言葉でした。しかし、振り返ってみると自分も過去に「汚い」「うざい」などの言葉を使っていました。人は、自分が言われて初めて、その言葉の重さに気がつくのでしょうか。私は今後悔しています。

私の言った言葉が、相手を悲しませ、怒らせる。その負の感情は、また他の相手に伝わっていく。この無意識の負の連鎖は、日常的に簡単に起こり、人を傷つけ、周りを巻き込み、争いさえ引き起こしていくのです。

現代社会で誰もが持っている情報機器。ツイッターやフェイスブック、ラインで「いいね」の数を競う理由は、もしかすると、人々が無意識に求める「認められたい」という気持ちの表れなのかもしれません。それならばネット上ではなく、今いる目の前の友に直接「いいね」を発信しませんか。相手を認めるこの言葉が、人間関係のトラブルを防ぐことができる、と私は信じています。そして、お互いを認め合う社会を築いていきませんか。

#### ○ この作品を書いたきっかけはなんですか？

私は小さいころからアトピー性皮膚炎という病気がひどく、友達にからかわれ、傷つき、悩んできました。「わたしの主張」をきっかけに人に知られたい自分の思いをおもいきって表に出そうと思いました。また、普段何気なくつかっている言葉にも人を傷つけてしまうこともあるのだということも訴えたいと思いました。そして、わたしの主張で友達同士が思いやりのある言葉をかけ合い、仲間関係を築ければいいと思いこの主張を書きました。



入賞 (台風 10 号の影響により県大会後に地区大会が開催された下関伊北地区の最優秀賞を受賞されました。)

## 価～立志誓いの言葉～

岩泉町立岩泉中学校 3年  
八重樫 蘭 (やえがし らん)

「私の立志誓いの言葉は“価”です。常に意識や志を高く持ち、相手意識を大切にしていより上を目指した行動や考え方をしていきたいです。

これは、昨年度の1月に行われた岩泉中学校の立志式で私が発表した立志誓いの言葉です。私は誓いの言葉を“価”としました。

この一文字の漢字を選んだ理由には、私自身の苦い経験とその時頂いた先生の言葉が関係します。

昨年11月、岩泉中学校では生徒会役員選挙がありました。私は1学年、2学年と学級委員長を務めてきました。そこで得た経験を生かそうと「生徒会長」に立候補することを決意しました。

しかし、生徒会長への立候補者はもう一人いて、生徒会長だけが決選投票となりました。

開票の日。結果は落選でした。

悔しかった。

その日、家に帰って私は自分自身のこれまでの言動をじっくりと振り返って、自分自身に何が欠けていたのか冷静に考えてみました。

今まで、相手にもっと自分の考えを理解してもらおうと誠心誠意働きかけることが不十分だったのかもしれない。いつも自分も相手の考えを理解するために共感する姿勢が足りなかったのかもしれない。これまで自分があまり意識していなかったことが、実は不足していることに気付いたので。

私はこの体験を通して自分の弱さと向き合うことができたと思います。

しかし、次にどう前に進んだらいいのか。何をすべきなのか。なかなか気持ちを切り替えることが出来ずにいました。

そんな時、自学ノートの右上にこんなことが書かれていたのです。

「苦しいとき、落ち込んだとき、その人の“真価”が見える。頑張るんだぞ!!」

先生からの励ましの言葉でした。この言葉をきっかけに私は「私の“価”って何だろうか」と真剣に考えました。

選挙の結果が出た後、学級の仲間達がもう一度私に学級委員長としてのチャンスを与えてくれました。そして、学級委員長として活動を積み重ねていくことで、私は自分自身の“価”について、自分なりの結論を出しました。

「誰にでも物怖じせず相手に接することができること」自らの考えを提案する発信力これこそが、私の良さであり“価”なのかもしれない。そう強く思うようになりました。

同時に、生徒会長落選の苦い経験から学んだ「相手の立場になって物事を考えたり、相手の思いを受け止めたりしながら、自分の考えを届けていくこと」を以前よりも心掛けました。

この経験から学んだことがあります。

大切なことは、自分の考えを明確にし相手を思いやりながら如何に解かしてもらえるように思いをもって伝えるか。試行錯誤しながらも何度も挑戦し続けていくことではないでしょうか。

人前に立って自分の考えを伝える機会が多いことで「目立ちたがり屋」「自分のことしか考えていない」と様々な反感を買うこともあります。しかし、自分の考えを相手にしっかり理解してもらうためには、自分の言葉を的確に相手に伝えるしかありません。その際相手の状況や立場を考え、相手の考えの良さを発見しようとする意識の高さが求められてくるのだと思います。

「私の立志誓いの言葉は、“価”です。常に意識や志を高く持ち、相手意識を大切にしていより上を目指した行動や考え方をしていきたいです。」

### ○ この作品を書いたきっかけはなんですか？

昨年度の生徒会役員選挙で落選してしまったことです。この経験をきっかけに自分自身の「価」について考えるようになりました。選挙後の活動を通して私は自分なりの「価」についての結論を出すことができました。これは、私の長所でもあると思うので、これからも多くの場面で発揮していきたいと考えています。そして自分の「真価」をもっと磨いていきたいと思っています。

## 審査委員長講評

(株)岩手日報社取締役論説委員会委員長 村井康典

簡単に審査委員会の講評をお話いたします。17人の発表を聞きました。

どの発表も自らの体験や見聞きしたニュース、地域や学校など身の回りで感じたことを出発点に考えを深め視点を社会や世界に広げており非常に聞き応えがありました。

心を打たれる発表もありました。私たち大人が、むしろ考えなければならない問題を鋭く提起する発表もありました。聴衆の皆さんも今日は、何か一つ大事なものを持ち帰ることができるのではないのでしょうか？

審査の結果は本当に僅差で、今年の大会のレベルが、例年にも増して高いという感想はどの審査委員からも聞かれました。

最優秀賞の石川さんの発表は、東日本大震災から5年が経って、次第に風化する中で、与えられた命を大事に生きると目標を決めて生きるという姿勢が聴衆の胸を打ちました。空手のパフォーマンスも聴衆を惹きつけました。

皆さんの発表を聞いて心に残った言葉があります。多くの方が使っていた「かけがえのない」という言葉です。大震災の時にも随分この言葉が聞かれました。「かけがえ」とは、代わりになる人とか物とかそういう意味ですけれども、だから「かけがえのない人」とは、誰もその人に代わることでできない大切な存在という意味です。自分にとって「かけがえのない人」は誰でしょう。すぐ心に浮かぶと思います。家族で会ったり、友人であったり、クラブの仲間であったり、私たちはとても大事な人に囲まれて暮らしています。

では、自分は誰かにとって「かけがえのない人」でしょうか。この問いには時々自信がなくなります。大人も悩みます。でも、周囲の人達は「かけがえのない大事な存在」だとあなたを見ています。発表者は、そこに気が付いています。支えられている人が今度は支える人になる。救われている人が今度は救う人になるのです。

人はそれぞれ違います。発表でも随分強調されました。それぞれにきちんと役割があります。「1/1の個性」と表現した人もいました。金子みすゞさんの詩を引用して「みんな違ってみんないい」と話した人もいます。「認め合う」という大事なことを指摘した人もいます。無知ゆえの偏見という大事な指摘もありました。

姿とか形だけではなくて、みんなと違う意見を言えば、白い目で見られるのではないかと、ひょっとするとこの意見を言わずに横並びの方がいいんじゃないかと思うことも度々あります。でも想像してみてください。言いたいことを言えない社会というのがどれほどおかしな社会か。自分の意見とは違っても、相手の意見を認める寛容さ、これが今一番この社会に求められているのではないかと思います。

他人も自分も「かけがえのない人」そう考えればいじめはなくなります。

世界で大きな問題となっている人種差別をはじめとするいろいろな差別もなくすことにつながると思います。でも世界はなかなかその方向に進んではいません。どうすれば実現できるか、これからも考え続けてほしいと思います。

今年の大会には、下関伊北地区の代表が台風10号の影響で参加することができませんでした。一日も早い復興をお祈りするとともに、この辛い体験を乗り越えて、来年はこの場で元気な発表をすることを期待いたします。

最後に、今日の聴衆の城西中学校は大変立派でした。運営についても発表者と一緒にこの大会を盛り上げていただいたと思います。

最優秀賞の石川さんは、11月に全国大会がありますが、途中の北海道・東北ブロックを是非、抜けて全国でも活躍していただくよう期待いたします。

簡単ですが、以上で講評を終わります。ありがとうございました。

# 各地区大会の開催結果

(注) 出場者欄 最=最優秀賞 秀=優秀賞 良=優良賞

## 盛岡東地区 応募者数 961人

日時 平成28年9月5日(月) 13:00~16:20

場所 盛岡市立下橋中学校

審査委員

(株)岩手日報社編集局報道部第二部長 八重樫卓也  
 盛岡教育事務所在学青少年指導員 星 俊 也  
 盛岡市教育委員会教育研究所専門研究員 中村雅英  
 盛岡東警察署地域官 足利信弘  
 盛岡東地区防犯協会連合会長 鎌田まき子

出場者

- |       |                 |                 |        |
|-------|-----------------|-----------------|--------|
| 1     | ありがとう、みんな       | 河 南 3年          | 照井 颯 希 |
| 2     | 「明るい未来」を築くために   | 飯 岡 3年          | 浅沼 香子  |
| 3     | 関心が生む歓心         | 岩大教育<br>学部附属 3年 | 藤 本 翔  |
| 4     | 優人              | 松 園 3年          | 渡邊 優人  |
| 良 5   | 「ヨウコソ」が教えてくれたこと | 大 宮 3年          | 大下 透湖  |
| 6     | 心の舵             | 見 前 3年          | 栗林 春稀  |
| 会員賞 7 | 私が目指すもの         | 巻 堀 3年          | 佐藤 竜雅  |
| 8     | 人との関わりを大切に      | 見前南 3年          | 中村 穂香  |
| 9     | つなぐ             | 黒石野 3年          | 鈴木 歩   |
| 10    | ひまわりの花になるように    | 北松園 3年          | 佐々木 藍海 |
| 11    | 五年              | 下 橋 3年          | 西川 莉子  |
| 最 12  | 生きること           | 下小路 3年          | 佐藤 花野  |
| 13    | action          | 城 東 3年          | 吉田小百合  |
| 良 14  | 感動が生み出す出会い      | 渋 民 3年          | 内藤 雪乃  |
| 秀 15  | 前を向いて           | 下 橋 3年          | 伊東 佳音  |
| 16    | 古典と私たち          | 白百合 3年          | 畠山そよか  |
| 良 17  | 道は一つじゃない        | 乙 部 2年          | 阿部 泰斗  |
| 18    | 心を唱う            | 仙 北 3年          | 吉田 岬樹  |
| 19    | いじめをなくす一歩       | 玉 山 3年          | 水上日向子  |
| 秀 20  | 変わるために          | 上 田 3年          | 乙部 桃子  |
| 21    | 命は「モノ」ではない      | 米 内 3年          | 内金崎愛海  |

## 盛岡西地区 応募者数 291人

日時 平成28年9月5日(月) 13:30~16:00

場所 盛岡市立北陵中学校

審査委員

盛岡市教育委員会教育研究所専門研究員 上山光博  
 滝沢市教育委員会社会教育指導員 田口 功  
 雫石町教育委員会社会教育指導員 村田津南雄  
 (株)岩手日報社編集局報道部専任部長 佐藤 晋  
 盛岡西警察署長 白鳥 洵  
 盛岡西地区少年警察ボランティア協会会長 切金 一夫

出場者

- |     |           |        |       |
|-----|-----------|--------|-------|
| 良 1 | 北梅太鼓      | 厨 川 3年 | 工藤 遥  |
| 2   | 命を守るということ | 土 淵 3年 | 齋藤 旭  |
| 3   | 私の困難      | 繋 3年   | 藤平 朱花 |

- |      |              |         |       |
|------|--------------|---------|-------|
| 良 5  | 心を合わせて       | 北 稜 3年  | 藤根 健大 |
| 秀 6  | 困難を乗り越えて     | 城 西 3年  | 田中 愛理 |
| 7    | さんさが好き!!     | 滝沢南 3年  | 高山 聖菜 |
| 8    | 小さな革命        | 滝沢第二 3年 | 八重樫瞳子 |
| 秀 9  | 共に生きる社会を     | 姥屋敷 2年  | 鈴木 雄大 |
| 10   | 僕を動かす「積極主義」  | 柳 沢 3年  | 桑原 英男 |
| 良 11 | わたしたちが任された役割 | 一本木 3年  | 田代 穂香 |
| 最 12 | 今、生きていること    | 滝 沢 3年  | 馬場 友悠 |
| 13   | 未熟な心         | 雫 石 3年  | 加藤 瑞華 |

## 北岩手地区 応募者数 120人

日時 平成28年8月31日(水) 13:30~16:00

場所 岩手町立沼宮内中学校

審査委員

岩手町教育委員会教育長 平澤勝郎  
 八幡平市教育委員会教育長 遠藤健悦  
 葛巻町教育委員会主任指導主事 西舘修治  
 北岩手地区少年警察ボランティア協会会長 高橋 忠一

出場者

- |      |             |         |       |
|------|-------------|---------|-------|
| 良 1  | 挑戦          | 葛 巻 3年  | 上野 大地 |
| 2    | 忘れないで       | 小屋瀬 3年  | 元村 弥佑 |
| 3    | 支える人に       | 江 刈 3年  | 上方 桜咲 |
| 4    | 不満な気持ちの扱い方  | 沼宮内 3年  | 松澤 希乃 |
| 5    | 誰かにとって大切な自分 | 川 口 3年  | 田中 将太 |
| 秀 6  | 笑顔で自分から     | 一方井 3年  | 八尾 咲  |
| 秀 7  | 自分ごと        | 西 根 3年  | 伊藤 陽菜 |
| 良 8  | 支える立場になるために | 西根第一 3年 | 津志田南萌 |
| 良 9  | 言葉と共に生きる    | 松 尾 3年  | 高橋 優実 |
| 最 10 | 「いま」を生きる    | 安 代 3年  | 矢部 凜香 |

## 紫波地区 応募者数 583人

日時 平成28年8月29日(月) 13:30~15:30

場所 矢巾町立矢巾中学校

審査委員

盛岡教育事務所在学青少年指導員 星 俊 也  
 紫波町教育委員会教育相談員 畠山秀一郎  
 矢巾町教育委員会教育研究所所長補佐 小野寺 仁  
 紫波警察署長 向田 一久  
 (株)岩手日報社紫波支局長 向川原成美

出場者

- |     |              |         |        |
|-----|--------------|---------|--------|
| 1   | 私のできること      | 紫波第一 3年 | 佐々木美果杏 |
| 秀 2 | 地域とともに生きる    | 紫波第二 3年 | 半田みなみ  |
| 良 3 | とらわれない自分に……  | 紫波第二 3年 | 藤原 春香  |
| 4   | 個性が輝く社会をめざして | 紫波第三 3年 | 佐藤 梨華  |
| 良 5 | 私の願うこと       | 紫波第三 3年 | 鷹 鷲 美希 |
| 6   | 関心をもつということ   | 矢 巾 3年  | 三浦 深雪  |

- |     |          |     |    |       |
|-----|----------|-----|----|-------|
| 4   | 話すことの難しさ | 北 稜 | 3年 | 佐々木真子 |
| 8   | 一番大切な存在  | 矢巾北 | 3年 | 川村 駿介 |
| 最 9 | 共に生きるために | 矢巾北 | 3年 | 村松 拓海 |

花巻地区	応募者数	988人
------	------	------

日 時 平成28年9月5日(月) 13:30~16:00  
 場 所 花巻市立東和中学校  
 審査委員  
 中部教育事務所在学青少年指導員 藤田 俊 男  
 花巻市青少年育成市民会議会長 市川 浜  
 花巻市校長会会長 今野 充 雅  
 花巻警察署長 熊谷 芳 文  
 花巻市教育委員会生徒支援員 高橋 啓 悦  
 (株)岩手日報社花巻支局長 村上 弘 明

- 出場者
- |      |                  |     |    |        |
|------|------------------|-----|----|--------|
| 1    | 平和の武器            | 東 和 | 3年 | 澄川立 皓  |
| 良 2  | 伝統の心             | 大 迫 | 3年 | 藤原仁 菜  |
| 秀 3  | 思いをつなぐ           | 南 城 | 3年 | 浅沼佳 奈  |
| 最 4  | 「声に出す勇氣」         | 石鳥谷 | 3年 | 阿部 祥 子 |
| 5    | 「いじめ防止活動」のめざすもの  | 宮野目 | 3年 | 谷本智 哉  |
| 秀 6  | 粉骨砕身             | 花 巻 | 3年 | 板垣 茉 子 |
| 7    | 温もりある言葉          | 湯 本 | 3年 | 田口 晃 多 |
| 8    | 十八歳選挙権を生かそう      | 花巻北 | 3年 | 大村 朋   |
| 良 9  | 出会い、語り合い、そしてつながる | 矢 沢 | 3年 | 伊藤 隼 己 |
| 良 10 | 被災地に学ぶ           | 湯 口 | 3年 | 渡邊万 由子 |
| 11   | 無限の挑戦            | 西 南 | 3年 | 阿部 杏 野 |
| 12   | メトロノーム           | 東 和 | 3年 | 上山 聖 矢 |

北上地区	応募者数	362人
------	------	------

日 時 平成28年8月31日(水) 13:30~16:15  
 場 所 北上市立南中学校  
 審査委員  
 中部教育事務所在学青少年指導員 澤田 育 生  
 (株)岩手日報社北上支局長 磯崎 真 澄  
 北上警察署副署長 永澤 幸 雄  
 和賀地区校長会いわさき小学校長 大沼 英 生  
 北上市社会教育委員会議社会教育委員 奥山 則 男

- 出場者
- |      |                  |     |    |        |
|------|------------------|-----|----|--------|
| 1    | 私にとって大切なこと       | 沢 内 | 3年 | 掃部 春 菜 |
| 2    | 負けない力、それは仲間      | 北上北 | 3年 | 伊藤 知 輝 |
| 3    | 拳闘魂〜リングで輝く〜      | 和賀西 | 3年 | 小原野 々華 |
| 4    | 笑顔の輪             | 江釣子 | 3年 | 加藤 翔 太 |
| 秀 5  | 気づく              | 南   | 2年 | 大堰 千 絵 |
| 6    | 支える・認める・感謝する     | 北 上 | 3年 | 阿部ひより  |
| 7    | イメージは変えるもの       | 上 野 | 3年 | 高橋 大 和 |
| 8    | 人と「関わる」ということ     | 東 陵 | 3年 | 上野 龍 登 |
| 良 9  | 人と言葉             | 和賀東 | 3年 | 小原 愛 花 |
| 良 10 | 全力で衝突すべし         | 湯 田 | 3年 | 高橋 梨   |
| 11   | 支え合いながら          | 飯 豊 | 3年 | 武田 香 乃 |
| 最 12 | 「強く 優しく 未来を見つめて」 | 南   | 3年 | 石川 杏 奈 |

7 父がくれた時間	矢巾 2年	浅沼 晃 希
水沢地区	応募者数	700人

日 時 平成28年9月2日(金) 13:35~16:15  
 場 所 奥州市立南都田中学校  
 審査委員  
 県南教育事務所在学青少年指導員 久保田 淳  
 水沢警察署長 工藤 実  
 (株)岩手日報社奥州支局長 八重樫慎之介  
 胆江日日新聞社編集委員 渡辺 晃  
 胆江地区中学校文化連盟会長 千枝 徳 三  
 水沢地区少年警察ボランティア協会会長 朝日田恭博

- 出場者
- |      |               |     |    |        |
|------|---------------|-----|----|--------|
| 1    | これからの自分がすべきこと | 南都田 | 3年 | 菅原絵里 奈 |
| 2    | 「変わるんだ、私」     | 若 柳 | 3年 | 千田 彩 果 |
| 良 3  | 誰も一人ではない      | 水 沢 | 3年 | 千葉 晃 誠 |
| 4    | 人と人とのつながり     | 小 山 | 3年 | 高橋 舞   |
| 5    | 伝えたい、理解したい    | 水沢南 | 3年 | 高橋 知 央 |
| 6    | 熱戦からのメッセージ    | 東水沢 | 3年 | 千田初一 音 |
| 良 7  | 「伝える」ことの大切さ   | 衣 川 | 3年 | 千田 洋 平 |
| 8    | 自分から話すと・・・    | 金ヶ崎 | 3年 | 最上わか な |
| 最 9  | 子供たちを守る地域社会へ  | 前 沢 | 3年 | 吉田 麗 良 |
| 秀 10 | 私にとっての「夢中」とは  | 南都田 | 3年 | 千田なな か |

江刺地区	応募者数	284人
------	------	------

日 時 平成28年9月6日(火) 10:00~12:10  
 場 所 奥州市江刺総合支所  
 審査委員  
 県南教育事務所教育相談員 高橋 昌 男  
 奥州市教育委員会教育研究所長 堀籠 智 志  
 (株)岩手日報社奥州支局長 八重樫慎之介  
 江刺地区少年警察ボランティア協会 山崎ヨシ子  
 江刺警察署刑事・生活安全課長 佐藤 淳

- 出場者
- |     |                     |      |    |        |
|-----|---------------------|------|----|--------|
| 1   | 変えるために必要なこと         | 江刺第一 | 2年 | 小沢 千 星 |
| 2   | 僕が変われた理由(わけ)        | 江刺南  | 3年 | 及川 雅 己 |
| 3   | 「笑顔」と「ありがとう」のあふれる仕事 | 田 原  | 3年 | 菅野 陸 駆 |
| 良 4 | りんごにかける思い           | 江刺第一 | 3年 | 紺野由宇 斗 |
| 秀 5 | 祖母の強さと笑顔            | 江刺東  | 3年 | 菅野あおい  |
| 最 6 | 「知らない」から生まれる偏見を越えて  | 江刺第一 | 3年 | 千田 彩 加 |

一関地区	応募者数	184人
------	------	------

日 時 平成28年9月6日(火) 13:30~16:30  
 場 所 一関市立舞川中学校  
 審査委員  
 県南教育事務所教育相談員 千葉 和 行  
 一関警察署長 奥野 淳  
 (株)岩手日報社一関支社長 作山 充  
 一関市教育委員会指導主事 菊池 千 佳  
 一関市少年センター少年補導専任委員 八島 文 博

出場者

- |      |              |          |        |
|------|--------------|----------|--------|
| 1    | 家族を思う気持ちで    | 舞川 2年    | 佐藤 まな  |
| 2    | 僕たちが守るべきもの   | 一関東 2年   | 佐藤 優樹  |
| 良 3  | すてきな“ありがとう”  | 一関一高附 3年 | 千葉 百華  |
| 秀 4  | 人とつながるために    | 平泉 3年    | 富士 千尋  |
| 良 5  | 支えられて生きる     | 巖美 3年    | 佐々木 芽衣 |
| 6    | 花でつながる人との出会い | 本寺 3年    | 佐藤 彩花  |
| 秀 7  | 「知る」から始まる    | 舞川 3年    | 熊谷 光   |
| 8    | 今の私にできること    | 萩荘 3年    | 佐藤 美空  |
| 9    | 「自分」にしかない    | 磐井 3年    | 小沼 愛来  |
| 最 10 | 相手のよさに目を向けて  | 桜町 3年    | 瀧野澤 愛  |
| 11   | 自分の名前を大切に    | 花泉 3年    | 千葉 朱惟  |
| 良 12 | 行動した、その先に    | 一関 3年    | 佐々木 桃香 |

一関東地区 応募者数 39人

日時 平成28年9月2日(金) 13:30~15:40

場所 一関市立千厩中学校

審査委員

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| 県南教育事務所在学青少年指導員 | 伊藤 一志 |
| 一関東地区防犯協会連合会長   | 那須 邦雄 |
| 千厩警察署長          | 野田 静一 |
| 一関市教育委員会指導主事    | 高橋 聡子 |
| (株)岩手日報社一関東支局長  | 山内 俊一 |

出場者

- |     |              |       |        |
|-----|--------------|-------|--------|
| 1   | 十八歳          | 興田 3年 | 佐藤 綾香  |
| 最 2 | 未来へ～踏み出そう、今～ | 大原 3年 | 加藤 夕捺  |
| 3   | 「伝える」ことの大切さ  | 東山 3年 | 高橋 篤弥  |
| 秀 4 | 祈り           | 大東 3年 | 細川 優樹  |
| 5   | 「生きる」なかで創る   | 千厩 3年 | 金野 真歩  |
| 6   | 未来への一歩       | 室根 3年 | 小野寺 志織 |
| 7   | 幸せのかたち       | 川崎 3年 | 佐藤 蒼人  |
| 良 8 | 祖父から学んだこと    | 藤沢 3年 | 熊谷 桜   |

気仙地区 応募者数 90人

日時 平成28年9月1日(木) 13:15~16:15

場所 住田町立有住中学校

審査委員

- |                   |        |
|-------------------|--------|
| 沿岸南部教育事務所在学青少年指導員 | 伊藤 聡   |
| 気仙地区防犯協会連合会副会長    | 近藤 均   |
| 大船渡警察署高田幹部交番所長    | 三島 木達也 |
| (株)東海新報社編集部編集局長   | 長谷川 一芳 |
| (株)岩手日報社大船渡支局長    | 内城 俊充  |

出場者

- |     |                 |          |         |
|-----|-----------------|----------|---------|
| 良 1 | 高田のために私たちができること | 陸前高田第 3年 | 泉田 美香   |
| 2   | 偏見をなくすために       | 日頃市 3年   | 新沼 希未   |
| 最 3 | 五つの輪 一つの和       | 有住 3年    | 大和田 菜々海 |
| 良 4 | この手でできること       | 綾里 3年    | 及川 友子   |
| 5   | 小さな関わりを大切に      | 越喜来 3年   | 新沼 瑠央   |
| 秀 6 | 母の望む世界へ         | 高田東 3年   | 村上有 優実  |

- |      |              |         |        |
|------|--------------|---------|--------|
| 7    | 子どもの人権を守るため  | 世田米 3年  | 佐藤 創太  |
| 良 8  | 私の家族         | 赤崎 3年   | 杉本 桜   |
| 9    | 人と人とのつながり    | 末崎 3年   | 大和田 涼太 |
| 10   | 一粒の種         | 気仙 3年   | 河野 義継  |
| 11   | 夢を見つめて       | 大船渡 3年  | 新沼 杏佳  |
| 12   | 乗り越えた先にあったもの | 吉浜 3年   | 菊地 笑子  |
| 秀 13 | 見守り支え合う社会に   | 大船渡第 3年 | 岡澤 明空  |

遠野地区 応募者数 535人

日時 平成28年9月1日(木) 13:30~16:00

場所 遠野市立遠野中学校

審査委員

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| 中部教育事務所在学青少年指導員 | 藤田 俊男  |
| 遠野市教育委員会学校教育課長  | 新井野 邦夫 |
| 遠野市校長会長(青笹小学校長) | 多田 功一  |
| 遠野警察署次長         | 門間 修   |
| 遠野市少年委員協議会長     | 佐々木 芳夫 |
| (株)岩手日報社遠野支局長   | 細川 克也  |

出場者

- |     |           |        |         |
|-----|-----------|--------|---------|
| 秀 1 | こころの言葉    | 遠野東 3年 | 堀切 美花   |
| 良 2 | 私があるために   | 遠野東 2年 | 佐々木 聖佳  |
| 良 3 | 伝えたいもの    | 遠野西 3年 | 浅沼 未希   |
| 良 4 | 共に生きる     | 遠野 1年  | 細川 蒔人   |
| 最 5 | 1/1の個性    | 遠野 3年  | 小田島 芽衣子 |
| 秀 6 | 自分なりの幸せ   | 遠野東 3年 | 佐々木 亮太  |
| 良 7 | 勝利の先にあるもの | 遠野西 3年 | 小山田 彩未  |
| 良 8 | 分かりあえるために | 遠野 2年  | 小原 江    |
| 良 9 | 応援の力      | 遠野西 2年 | 佐々木 杏   |

釜石地区 応募者数 49人

日時 平成28年8月31日(水) 14:00~16:00

場所 釜石市立甲子中学校

審査委員

- |               |       |
|---------------|-------|
| 釜石市教育委員会教育長   | 佐藤 功  |
| 大槌町教育委員会教育長   | 伊藤 正治 |
| 釜石警察署長        | 阿部 裕一 |
| (株)岩手日報社釜石支局長 | 浅沼 祐一 |

出場者

- |     |            |          |        |
|-----|------------|----------|--------|
| 1   | 町の心を奏でる    | 吉里吉里学 9年 | 釜石 りお  |
| 秀 2 | 白い部屋の中から   | 唐丹 3年    | 鈴木 彩香  |
| 良 3 | 生きる言葉      | 釜石 3年    | 菅原 柚水  |
| 4   | 動物と人間の命の重さ | 大平 3年    | 佐々木 桜子 |
| 5   | 乗り越えるということ | 甲子 3年    | 戸澤 嶺   |
| 最 6 | いつかこの海をこえて | 釜石東 3年   | 佐々木 千芽 |
| 7   | 大槌と、私の夢    | 大槌学園 9年  | 倉田 好海  |

宮古地区 応募者数 283人

日時 平成28年9月8日(木) 9:30~12:00

場所 宮古警察署 会議室

審査委員

宮古教育事務所在学青少年指導員 佐々木 壽
宮古市教育委員会教育研究所長 市村 章
山田町教育委員会教育研究所長 三上えり子
宮古警察署長 玉澤賢一

出場者

- 良 1 「一生懸命」はかっこいい 河南 3年 鎌田 恵美
2 ネット社会に生きる 第二 3年 盛合多聞
3 じいちゃんが教えてくれたこと 田老第一 3年 佐々木遥奈
良 4 心で動く 第一 3年 鈴木 優海
5 高齢者と共に 崎山 3年 工藤 紗菜
最 6 「ひとこと」の重さ 山田 3年 黒沢 知花
7 自分らしく一歩づつ 津軽石 3年 山本沙智穂
8 決して1人ではない 新里 3年 山桑ゆうか
秀 9 祖母の生きた証 私の生きる道 花輪 3年 関口 恭太
10 出会いと挑戦が僕を強くする 豊間根 3年 吉川 朋希
良 11 私を変えたもの 宮古西 3年 高田 美咲
12 学級は家族だ 重茂 2年 姉石 深樹
秀 13 私の夢 川井 3年 新田 芳美

下閉伊北地区 応募者数 95人

日時 平成28年10月27日(木) 13:00~15:20

場所 田野畑村立田野畑中学校

審査委員

県立岩泉高等学校校長 茂庭 隆彦
(株)岩手日報社宮古支局長 菊池 拓朗
岩泉町教育委員会教育長 三上 潤
田野畑村教育委員会教育長 巖岩 敏雄
岩泉警察署長代理 後藤 俊生

出場者

- 良 1 伝統を守りたい 釜津田 3年 佐々木歩実
2 自分らしく 小本 3年 上野 蒼生
3 つながる思い 小本 3年 竹花 悠
秀 4 人権を守るということ 安家 3年 赤須賀麗奈
最 5 価~立志誓いの言葉~ 岩泉 3年 八重樫 蘭
6 手助け~今私たちにできること~ 岩泉 2年 阿部千恵美
7 野球から学んだこと 小川 3年 菊地 陸希
8 私は自分が嫌い 小川 2年 太田 美咲
9 家族の大切さ 田野畑 3年 佐藤 永宙
10 本当の仲間 田野畑 3年 小澤 佳乃

久慈地区 応募者数 15人

日時 平成28年8月29日(月) 13:30~16:30

場所 久慈市山村文化交流センター

審査委員

久慈市教育委員会教育長 加藤 春男
久慈警察署長 及川 哲也

久慈地区中学校文化連盟会長 小 向 敏 夫

(株)岩手日報社久慈支局長 小野寺卓朗

久慈地区少年警察ボランティア協会会長 濱久保優司

県北教育事務所在学青少年指導員 宇部 澄 男

出場者

- 1 自分を輝かせる 久慈 3年 村田日菜子
秀 2 笑顔と元気を届ける 長内 3年 欠畑 夏海
最 3 命はかけがえのないものだから 大川目 3年 宅石七瀬
4 武道が教えてくれたもの 夏井 3年 三上 芙純
良 5 ふるさとへの想い 侍浜 3年 林崎なみえ
6 新しい自分と出会う旅 宇部 3年 柏木 陽菜
秀 7 私がチョークから学んだこと 三崎 3年 中川 紗希
8 演劇から学んだこと 山形 2年 苅間澤 愛
良 9 言葉と向き合う 山形 3年 日向 利奈
10 自分にできること 種市 3年 古瀬まどか
11 一通の手紙から 宿戸 3年 毛糠 希桜
12 ひめゆりからのメッセージ 中野 2年 猪石 美緒
良 13 つながりゆくもの 大野 3年 田高 和夏
14 想いを届ける 野田 3年 小谷地奏汰
秀 15 尊い命で平和を・・・ 普代 3年 梶谷 美麗

二戸地区 応募者数 123人

日時 平成28年9月5日(月) 13:30~16:00

場所 九戸村立九戸中学校

審査委員

県北教育事務所在学青少年指導員 槻館 行 男

二戸地区中学校文化連盟会長 中嶋 敦

九戸村教育委員会教育長代理 川原 憲彦

二戸ライオンズクラブ会長代理 中奥 孝宏

二戸地区少年警察ボランティア協会会長 田畑 文弥

(株)岩手日報社二戸支局長 遠藤 享

出場者

- 1 自分と向き合う 九戸 3年 松ヶ平 希成
2 笑顔にする魔法 御返地 3年 上平 洸大
3 平等な社会を創るために 軽米 3年 土佐 慈
良 4 こころ 九戸 3年 本堂 未来
良 5 つながり続けていくこと 一戸 3年 田口 凧沙
秀 6 努力が「出会い」に 金田一 2年 工藤 快
7 温かくて大切なもの 奥中山 3年 西館 萌花
最 8 「認める」 福岡 3年 大村 郁弥
9 続けていったその先を 浄法寺 3年 佐藤 敏幸

## 「平成28年度（第18回）わたしの主張岩手県大会」 審査要領

### 1 審査基準

#### (1) 採点の基準

各審査委員の持ち点は、発表者1人につき、次の区分による100点とし、採点は減点法とする。

ア 論 旨	55点	} 計 100点
イ 表 現	30点	
ウ 態 度	15点	
エ 時 間	主張時間は5分とする。	

※主張時間が4分30秒未満の場合、又は5分30秒を超える場合は、それぞれの時間から10秒を過不足するごとに1点を減点する。

#### (2) 採点の内容

- ア 論 旨：① 若者（中学生）らしい感性で、新鮮な主張であるか。  
② 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。  
③ 自己の目標を实践する意欲や、提言に関する熱意・真剣さが感じられるか。  
④ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。
- イ 表 現：① 熱意と説得力があり、聴衆に感銘を与えたか。  
② 言葉や発声は明瞭で、抑揚・間の取り方も適切であったか。
- ウ 態 度： 聴衆をよく見て落ち着いた態度であったか。
- エ 時 間： ・主張開始後5分 …………… ベルを1回  
・主張開始後5分30秒 …………… ベルを2回

### 2 審査方法

#### (1) 審査表の記入及び集計

各審査委員は、各発表者の審査結果を、審査採点票（個票）及び審査採点票（控）に記入する。

なお、審査採点票（個票）は、2～3人の発表毎に、係が回収し集計をする。

#### (2) 順位の決定

各発表者の主張終了後、審査会において最優秀賞1人、優秀賞2人、優良賞3人を決定する。

受賞者の決定は、採点集計表を参考とし、審査委員の協議によるものとする。

なお、最優秀賞受賞者は、「少年の主張全国大会」候補者として、北海道・東北ブロック審査会に推薦するものとする。

### 3 成績発表並びに講評

審査委員長が結果を発表し、講評を行う。

※各地区大会の審査要領は、岩手県大会審査要領に準じるものとする。

## 「平成 28 年度（第 18 回）わたしの主張岩手県大会」実施要綱

### 1 目的

次代を担う中学生が、未来に向けての夢、社会に対しての意見や希望、または日常生活の中で感じたこと（意見・発見・提案・疑問）など、自分の気持ちを素直に表現する弁論の場を提供することにより、地域社会とのかかわり（つながり）について考え、行動する契機にするとともに、参加中学生の文化的な資質向上に寄与し、大人を含めた多くの人々が、中学生に対する認識、理解を深めることにより、少年の健全育成の充実を期そうとするもの。

### 2 対象

県下に在住している中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にある方

### 3 主催

わたしの主張岩手県大会実行委員会

【 岩手県 岩手県教育委員会 岩手県警察本部 （公社）岩手県青少年育成県民会議  
（公社）岩手県防犯協会連合会 （株）岩手日報社 岩手県中学校文化連盟 】

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

### 4 共催

盛岡市 盛岡市教育委員会

### 5 後援

岩手県中学校長会 岩手県PTA連合会 NHK盛岡放送局 IBC岩手放送 テレビ岩手  
エフエム岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ

### 6 開催日時

平成 28 年 9 月 15 日（木） 13 時 00 分～16 時 30 分

### 7 開催場所

小田島組☆ほ～る（いわて県民情報交流センター）〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通 1 丁目 7 番 1 号  
〔※会場協力校 盛岡市立城西中学校〕

### 8 出場者

別に定める推薦要領に基づき、地区大会より推薦された 17 名及び県大会会場市町村から推薦された 1 名の計 18 名による主張発表を行います。

### 9 発表内容

#### （1）主張の内容

下記の A～C のいずれかに該当し、心からの思いや考えたこと、感銘を受けたことなどを率直に表現したもので、未発表・自作のものに限ります。

分類	内 容	これまでの例(参考)
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会や世界に向けての意見</li> <li>・ 未来への希望や提案など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境問題、国際社会について</li> <li>・ 地域の伝統文化・伝統芸能</li> <li>・ 貧しい国への支援</li> <li>・ 介護の問題</li> <li>・ 夢に向かって</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭、学校生活、社会（地域社会）とのかかわり</li> <li>・ 身の回りや友達とのかかわりなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 命の尊さ</li> <li>・ 共に生きる(障がいと向き合う)</li> <li>・ 家族愛</li> <li>・ 人との関わり</li> <li>・ 復興への思い</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全で安心な生活ができる地域社会づくり</li> <li>・ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動</li> <li>・ 大人や社会のさまざまな出来事に対する意見や感想、提言など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 犯罪のない明るい地域社会づくり</li> <li>・ 交通事故を防止するには</li> <li>・ いじめのない社会生活</li> <li>・ 公共のマナーや規則を守ること</li> <li>・ インターネットやスマートフォンの危険、正しい利用方法</li> <li>・ 報道されている事件や事故の防止</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>

※ 分類 C の発表が少ないことから、積極的に取組みいただきますようご指導願います。

※ 商業的な固有名詞の使用は極力避けるようにしてください。

（悪い例：〇〇県にある〇〇旅館 良い例：〇〇県にある旅館 など。）

## (2) 発表方法

自由（日本語で発表することが条件）

※ 発表の際はマイクを使用します。

※ 発表に際しては、パフォーマンス（例えば、服装は自由とし、小道具を使用してもよい）を取り入れてもよいこととします。ただし、発表者以外の動作・補助等は認めません。

## (3) 発表時間

5分間（400字詰め原稿用紙4枚程度）

※ 発表時間は、読み始め（パフォーマンス含む）から読み終わり（パフォーマンス含む）までとします。

※ 発表時間が4分30秒未満の場合、又は5分30秒を超える場合は、採点の際に1点減点となりますので、ご注意ください。（さらに10秒ずつ過不足することに1点ずつ減点）

【発表時間による減点】

時間	4'10~4'19	4'20~4'29	4'30~5'30	5'31~5'40	5'41~5'50
減点	2	1	0	1	2

## 10 表彰

発表終了後、直ちに開催する審査会において、最優秀賞1名、優秀賞2名、優良賞3名を選出し表彰します。

なお、最優秀賞受賞者は、北海道・東北ブロック審査会に「少年の主張全国大会」の候補者として推薦します。

## 11 自然災害等への対応

### (1) 自然災害等による大会中止

大会中止の判断基準は、以下のとおりとします。

① 自然災害等により、欠席者が3分の1を超える見込みの場合（7名以上が参加できない場合）

② 会場及び会場周辺の被災等により、当日の大会開催が困難な場合

### (2) 大会中止時の対応について

① 当日8：30分前に中止と判断した場合は、直ちに参加者等へ連絡します。

※ 当日8：30以降は、原則として参加可能者のみで大会を実施し、最優秀賞受賞者を東北・北海道ブロック大会へ推薦します。

※ 当日8：30以降であっても、11（1）②と判断される場合には、大会を中止し、直ちに参加者等へ連絡します。

② 大会中止の場合も、11（1）②の場合を除き、会場に集合可能な審査員に集合していただき、作文審査により最優秀賞を決定します。

## 12 その他

(1) 応募原稿は返却しません。また、岩手県大会に参加した作品の著作権・放映権は、大会主催者に帰属します。

(2) 岩手県大会出場者及び引率者(1名)の旅費は主催者が負担します。県大会出場者には、出場決定後改めて案内を送付します。

## 13 問合せ先

【主に実施要綱や地区大会の結果取りまとめ等に関する事】

わたしの主張岩手県大会実行委員会事務局

〒020-8570 盛岡市内丸10-1

TEL 019-629-5392

岩手県環境生活部若者女性協働推進室内

FAX 019-629-5354

【主に県大会出場者や県大会の運営に関する事】

公益社団法人 岩手県青少年育成県民会議

〒020-0045 盛岡市西通1丁目7-1 アイーナ6階

TEL 019-681-9077

FAX 019-681-9078

【主に地区大会の運営・予算に関する事】

公益社団法人 岩手県防犯協会連合会

〒020-0881 盛岡市天神町11-1

TEL 019-653-4448

岩手県交通安全会館

FAX 019-653-4488

わたしの主張岩手県大会の期日・会場及び最優秀賞受賞者

回	年度 (平成)	開催 期日	会 場	最 優 秀 賞 受 賞 者				
				学 校 名	学年	氏 名	発 表 題	備 考
1	11	11.9.24	盛岡市立飯岡中学校	一関市立巖美中学校	3年	佐藤 遥	苦悩の日々を乗り越えて	
2	12	12.9.21	矢巾町「田園ホール」	花巻市立南城中学校	2年	小野寺 静	日本と中国のかけ橋に	
3	13	13.9.19	玉山村「姫神ホール」	釜石市立甲子中学校	3年	八幡 茜	海外語学学習で学んだ心	全国大会出場、 「青少年育成国民会議会長奨励賞」受賞
4	14	14.9.19	雫石町「野菊ホール」	久慈市立久慈中学校	3年	高安 愛美	風に吹かれて	全国大会出場、 「青少年育成国民会議会長奨励賞」受賞
5	15	15.9.19	岩手県立大学講堂	東山町立東山中学校	3年	高橋 志帆	老いも誇り	
6	16	16.9.27	花巻市文化会館	北上市立南中学校	3年	菅原 周平	嘶の言葉と言葉の話	全国大会出場、「文部科学大臣奨励賞」受賞
7	17	17.10.4	盛岡市都南文化会館	盛岡市立上田中学校	3年	坂本 潤奈	私は地球人	全国大会出場、「文部科学大臣奨励賞」受賞
8	18	18.9.20	盛岡市「アイーナホール」	遠野市立上郷中学校	2年	奥寺 大輔	とらわれない心で	
9	19	19.9.26	滝沢村「チャグチャグホール」	普代村立普代中学校	3年	内野沢さつき	おじいちゃんからの伝言	
10	20	20.9.24	紫波町立紫波第二中学校	八幡平市立松尾中学校	3年	藤原 寛	「吃音」の壁を越えて	全国大会出場、 「青少年育成国民会議会長奨励賞」受賞
11	21	21.9.24	盛岡市「盛岡劇場」	盛岡市立上田中学校	3年	西郷 華菜	伝えていく責任	全国大会出場、 「国立青少年教育振興機構理事長奨励賞」受賞
12	22	22.9.24	花巻市立石鳥谷中学校	盛岡市立見前中学校	3年	因幡百合絵	どうせ枯れる花ならば	
13	23	23.9.22	滝沢村立滝沢南中学校	陸前高田市立気仙中学校	3年	小笠原和恵	高らかに 響け	全国大会出場、「審査委員会委員長賞」受賞
14	24	24.9.20	盛岡市「盛岡劇場」	遠野市立小友中学校	2年	菊池愛利子	「命」をいただく仕事	
15	25	25.9.19	矢巾町「田園ホール」	山田町立山田中学校	3年	中村 奈緒	「当たり前」の中に生きる	全国大会出場、 「国立青少年教育振興機構理事長奨励賞」受賞
16	26	26.9.18	雫石町「野菊ホール」	岩手大学教育学部附属中学校	3年	渡邊 美卯	一言の重さ	全国大会出場、 「国立青少年教育振興機構理事長奨励賞」受賞
17	27	27.9.11	キャラホール・都南公民館	西和賀町立沢内中学校	3年	佐々木瑠海	支えられている命だから	

(参考)

## 「第 38 回少年の主張全国大会～わたしの主張 2016～」 入賞作品

### 【内閣総理大臣賞】

岐阜県代表

大見 夏鈴（おおみ かりん）さん

関市立旭ヶ丘中学校 3年

発表テーマ： 障がいは個性

### 【文部科学大臣賞】

広島県代表

牟田 悠一郎（むた ゆういちろう）さん

広島市立二葉中学校 2年

発表テーマ： 戦争を知ること

### 【国立青少年教育振興機構理事長賞】

三重県代表

中前 純奈（なかまえ じゅんな）さん

四日市市立羽津中学校 3年

発表テーマ： 伝えたいこと

### 【審査委員会審査委員長賞】

新潟県代表 高橋 心太郎さん 五泉市立五泉北中学校 1年

発表テーマ：みんなが幸福な社会を

#### 1 「第 38 回少年の主張全国大会～わたしの主張 2016～」について

- (1) 主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構（後援 内閣府、文部科学省ほか）
- (2) 開催日時：平成 28 年 11 月 13 日（日）13:00～16:00
- (3) 開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
- (4) 参加者：全国 5 ブロックの代表生徒 12 名

※ 岩手県大会最優秀賞受賞者の北上市立南中学校 3年 石川杏奈さんが努力賞を受賞しました。

- 2 入賞作品を印刷物等に転載する場合は、国立青少年教育振興機構（教育事業部事業課事業係 Tel03-6407-7683）から許可を受けてください。

## 障がいは個性

岐阜県 関市立旭ヶ丘中学校 3年 大見 夏鈴

みなさんは、障がい者についてどう思いますか。私は、自分が障がいをもっているのに、健常の人にどう思われているのか気になります。

私は2才の時に罹った病気の後遺症により、耳が全く聞こえなくなりました。そして、人工内耳をつける手術をしました。しかし、はっきりと聞こえるようになったわけではないので、困ることがたくさんあります。例えば、字幕のついていないテレビ番組を観ても内容が全く分かりません。プールでは人工内耳を外せば何も聞こえない状態です。みんなが話していても話の輪にうまく入っていけないこともあります。また、歌は好きですが、自分の歌う声が聞こえないため、自信をもって歌うことができません。

みなさんは、障がい者はかわいそうだと思いますか。

耳の聞こえない私は、かわいそうですか。

今、日本の自殺者は年間2万5千人近くいるそうです。その中に、障がい者は何人いるでしょう。障がい者をかわいそうと思うより、悩んで辛い思いをしている人たちを助けてあげてほしいと私は思います。障がい者の中には、サークル活動などで楽しく過ごし、自分の障がいをきちんと受け止めている人たちが多いのです。

私は障がいを個性だと思っています。私は、聞こえないことをつらいと思う時もありますが、悲しくはありません。それ以上に楽しいことがあるからです。それは、手話で話をする事です。手話は聞こえない人の欠かせない言語です。声での会話は、テレビを観ながらでもできますが、手話での会話は、相手に集中しないと成り立ちません。適当に聞くのではなく、相手の表情や口の動き、手の動きを見ながら相手の気持ちを考えて聴きます。つまり、いつも相手と正面から向き合っているのです。私は手話のそんなところが好きです。だから、聞こえる聞こえないに関係なく、多くの人と手話ができれば嬉しいです。

みなさんは、車いすバスケットを観たことがありますか。私は、間近で観たことがあります。とても激しいスポーツです。車いす同士がぶつかり合う時などは、あまりの激しさに目を覆いたくなります。健常者のバスケットとリングの高さは一緒なのに、車いすに座ったまま軽々とシュートを打ちます。その素晴らしさに、観ている方も非常に盛り上がります。

また、盲聾と呼ばれる、目が見えず、耳も聞こえない方たちがいます。どうやってコミュニケーションをとっているのかわかりますか。実は、その方法の一つに触手話があります。字の通り、手の感覚で手話を読み取ります。先程、手話は相手に集中しないと会話が成り立たないと言いましたが、触手話は触れ合わないと言いましたが、その分、より深く相手と気持ちを分かち合えるような気がします。友達と目を閉じて触手話をしてみたことがあります。とても難しく、一部しか言葉が通じませんでした。盲聾の方はすごいなあと思いました。私たちは、障がいがあるからこそ、相手とのコミュニケーションを特に大切にしているのです。けれども、困っているときは助けてください。話がうまく通じない時は、紙などに書いて見せてくれると助かります。

このように、どんな障がいをもっている、本人の考え次第で楽しく生きることができるのです。今、便利な世の中になっていますが、障がいのある人もみんなと無理なく暮らせるようになるには、もう少し時間がかかる気がします。私は、多くの人とコミュニケーションをとり、色々な意見を聞きたいです。そして、みんなが幸せに暮らせる社会の一員になりたいです。私の将来の夢は助産師になることです。障がいをもった赤ちゃんが生まれても「よく頑張ったね」と笑顔で迎え入れることができる助産師になりたいです。私は、これからも自分の障がいを個性として、コミュニケーションを大切にしながら生活していきます。

## 戦争を知ること

広島県 広島市立二葉中学校 2年 牟田 悠一郎

「あなたは広島に、いつ原子爆弾が落とされたか知っていますか？」テレビからふとそんな言葉が聞こえてきました。僕は「答えられない人なんている訳ないのに何でこんなインタビューしているんだろう。」と書いていました。しかしその人たちの受け答えを見て僕は衝撃を受けました。「分かりません」「知りません」そう言って去っていく人ばかりで最後まで答えられた人はほとんどいなかったのです。確かにインタビューが行われていたのは広島県ではありませんでしたが「なぜ過去にあんなに悲惨なことがあったのにこの人達はだれも答えることができないんだろう。」次々に「分からない」と答えていく人達に僕は怒りすら感じていました。

その数日後のことです。たまたまその日の平和学習で原爆が投下された日時の質問に僕が答えることになりました。僕はもちろん自信たっぷりに「1945年8月6日午前8時15分です。」と答えました。すると先生は一度頷いてもう一つ質問をしました。「じゃあ長崎は？」僕はそこで止まってしまう。1945年の8月、というところまでしか分からなかったからです。この前、広島に原子爆弾がいつ落とされたのか、答えられなかった人達に怒りさえおぼえていた自分が恥ずかしくて、広島のことだけを分かって偉そうにしていた今までが情けなくて、胸が苦しくなり僕はうなだれてその場に黙って座ってしまいました。

その日からです。僕は再び広島から、戦争、原爆についてもう一度知りたいと思いました。そこで僕は改めて原爆資料館に行きました。資料館の中はたくさんの人であふれかえっていました。ついこの前、アメリカの現大統領バラク・オバマ氏が広島を訪問したばかりだったからです。展示品を見ている大勢の人達は誰一人笑っていませんでした。最初は笑顔で中に入ってきた人達も、一つまた一つと資料を見ていくたびに顔を強張らせ、真剣な表情へと変わっていくのです。

オバマ氏の広島訪問には様々な意見が出ています。謝罪が無かったという人や、訪問することに意味などあったのか、という人もいます。果たして本当にそうでしょうか。資料館の中で最初は和やかな雰囲気だったグループが急に静かになったのはなぜなのでしょう。資料館に元気良く入っていく子供達がいつも表情を失って出てくるのはなぜなのでしょう。それは、戦争の恐ろしさを原子爆弾の破壊力を「知った」からだと思います。知ることによって人の心は動き、記憶するのです。確かに広島でのオバマ氏のスピーチは原爆投下についての謝罪もなく、具体性に欠けていたものだったのかもしれませんが。しかしアメリカのトップとして広島を「知る」。この行動こそが大きな意義を持ち、きっとオバマ氏の心も強く揺れ動いたはずで、その心は必ずこれからの核兵器廃絶につながる。僕は信じています。

僕は祖父から戦争、原爆のことについて話を聞いたことがあります。僕の祖父も被爆者だったからです。原爆により、身体の半分に大火傷を負い皮膚がドロドロになった僕の曾祖父の話、火傷の部分から出てくるウジを祖父が毎日取っていたという話、どれも二度と思い出したくないであろう苦しい出来事、それを僕に一生懸命教えてくれる祖父を見ていると絶対に過去の過ちを繰り返してはならないそう思いました。

僕達には知る義務があります。二度と戦争をしないと誓った国「日本」で生まれたものとして、戦争を、原爆を、知らなければなりません。これが平和への大きな一歩となるはずで、そしてそれを後世に未来に伝えていくこと、それが僕達の使命であり責任です。

「あなたは広島に、長崎にいつ原子爆弾が落とされたか知っていますか？」一僕は次にあの遠い夏、長崎で何があったのかを知りたい、今度は仲間とともに。そう思っています。

## 伝えたいこと

三重県 四日市市立羽津中学校3年 中前 純奈

そのニュースを見た時、しばらく言葉がでませんでした。今年の7月、神奈川県「津久井やまゆり園」で知的障がい者19人が殺される事件が起きました。この事件は悲しい、ひどいという感情だけではなく、私を動揺させました。多分それは私の姉に知的障がいがあるからです。

私が小4の頃から、8歳年上の姉より私の方ができることが増えてきました。靴の紐を結ぶのに時間がかかり、お金の計算が苦手な姉に、イライラ腹を立てたりしてきました。姉と一緒に外を歩くと周囲の目が気になり、隣を歩きたくないと思う時もあります。しかし、その反面、優しいなと感じることもあるのです。私ともう1人の姉が喧嘩をした時には、喧嘩の理由がわからなくても仲裁に入り、私をなぐさめてくれます。私が

「頭、痛いな・・・」

とえば、とても心配し

「ポカリ買ってこようか？」

など面倒をみてくれようとしています。産まれた時から一緒に暮らしている姉だから、腹が立つことがあっても、けっして嫌いにはならないし、このままの姉でいいと思っています。

けれども、私と同じ考えの人ばかりではないのだなと感じる時があります。

ある日、部活の帰り皆疲れて、駅のホームに座りこんでしまった時がありました。

「ここ、すわってると一、みんなの迷惑にならぬと思ひます一。」

と知的障がいの人が優しく言ってくれました。

「すみません。」

といい立ち上がった人がほとんどでしたが、

「しゃべり方、やばいね。」

と笑いながら立ち上がった人もいました。私はその言葉を聞いた時、なんだか姉のことも馬鹿にされているようでとても悔しかったです。そして、こういうことを言うてしまう人に、障がい者を見た目や行動だけで判断するのではなく、障がいがある人の内面のいいところをたくさん知ってほしいなと感じました。

そこで、人権についての授業後の感想に、姉の障がいについて気持ちを書いてみました。

すると数日後、それを読んだ先生から学年通信

に載せたいと言われ、私はとても嬉しくなりました。なぜなら、皆に姉の様な障がいがある人やその家族の気持ちを伝えられるチャンスだと思ったからです。

その学年通信が配布された日、帰りの会でクラスの皆の前で通信を読み、そのあとに、

「みんなの障がいがある人に対する思いを少しでも変えてくれたら、私のように一緒に暮らしている家族も、少し気持ちが楽になると思います。そして、そんな家族をみている姉達も、とても嬉しいと思います。」

と、自分の気持ちを話しました。

しかし、話し始めると自分がクラスメイトにどう思われているのかと怖くなり、手は震えてしまい、途中で涙もでてしまいました。とても恥ずかしかったけれど、自分の考えを伝えることができたので、すっきりしました。

帰りの会が終わると、クラスメイトが来て、声をかけてくれました。その中で

「俺、見方変えるわ。」

と言ってくれた人もいました。とても嬉しかったです。私の話を聞いて、見方を変えようとしてくれたことも嬉しかったし、正直に自分の気持ちを伝えてくれたこともとても嬉しかったです。

このクラスメイトみたいな人がもっと増えていくといいなと思いました。

もしも、私の姉が知的障がいではなかったら、私も障がい者の人を見て、変な人だなあと思っていたかもしれません。しかし私には姉がいます。私は姉の障がいを個性だと思っています。出来ないことが多い姉でも、私達家族を和ませてくれる大切な存在です。だから、世の中の人達にも、親しみを持って接して欲しいです。接することが難しいのなら、せめて温かい目で見守って欲しいです。障がい者がいなくなればいいなんて思わないでほしいです。障がいがあるからといって傷つけないでほしいのです。

私は将来、姉のような、「障がい」がある人がその人らしく安心して生活できるようサポートする介護福祉士になりたいです。そしてみんなの「障がい」に対する見方を変えていければいいなと思っています。

## 第18回わたしの主張岩手県大会発表文集

平成28年12月発行

編集 公益社団法人岩手県青少年育成県民会議

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1

いわて県民情報交流センター（アイーナ）6階

電話：019-681-9077 FAX：019-681-9078

ホームページ：<http://www.ipayd.server-shared.com/>

※ 転載等の問い合わせは、上記へご連絡ください。

